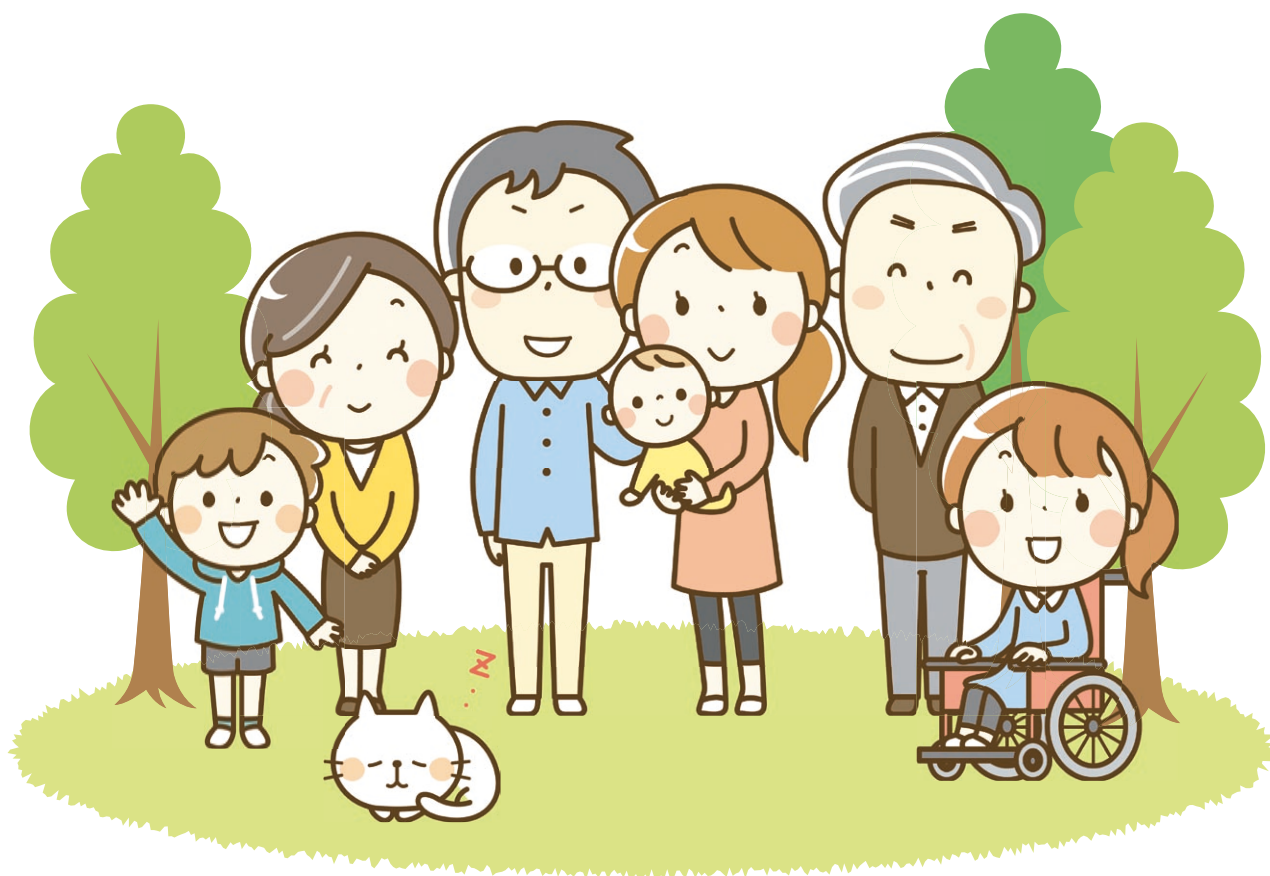


第3次諫早市地域福祉活動計画

かんしゃプラン

平成29年度～平成33年度



社会福祉法人



諫早市社会福祉協議会

はじめに



諫早市社会福祉協議会では、地域が抱える様々な福祉課題に対して、地域の皆さんとともに考え互いに協力して課題解決を図るため、福祉のまちづくりを進めるための指針である「地域福祉活動計画（かんしゃプラン）」を平成 19 年度から 5 年毎に策定し、計画の実現に向けて各種事業に取り組んでまいりました。

一方で、昨今の急速な少子高齢社会の進展のなかで、地域においては個人の価値観や生活様式の変化などに伴い、地域における連帯意識や相互扶助機能などの脆弱化が進み、社会的孤立や権利擁護、経済困窮など地域における生活課題はますます深刻化しています。

このような中、国においては、生活困窮者自立支援法の施行、介護保険制度の見直しによる新たな総合事業の実施、社会福祉法人制度改革など、地域福祉に重点が置かれた取り組みが進められており、本市においても、地域住民の皆さんと連携し、これら課題の解決に向けた取り組みを推進し、誰もが地域の「絆」を育み、安心して生活できる地域づくりを進めていかなければなりません。

今回、行政計画である「諫早市地域福祉計画（平成 29 年度～平成 33 年度）」との整合性を持ちながら策定しました第 3 次諫早市地域福祉活動計画では、「市民一人ひとりが尊厳を保持し、支え合いながら、安心して暮らすことができるまちづくり」を基本理念とし、5 つの基本目標「地域福祉を担う人づくり」、「共に支え合う地域づくり」、「健康でいきいきと暮らせる地域づくり」、「地域福祉を支える仕組みづくり」、「安全・安心に暮らせる地域づくり」を掲げ、計画の実現に向けて、関係機関・団体との連携・協働を一層進め取り組んでまいる所存であります。

この計画策定にあたり、ご尽力いただきました地域福祉活動計画策定委員会の皆様、アンケート調査にご協力をいただきました市民の皆様、地区（校区）社会福祉協議会の皆様など多くの方々に、心から感謝を申し上げご挨拶いたします。

平成 29 年 3 月

社会福祉法人諫早市社会福祉協議会
会長 藤 山 正 昭

目 次

1. 第3次諫早市地域福祉活動計画策定にあたって	2
（1）地域福祉活動計画策定の目的	2
（2）計画策定の経緯	2
（3）計画の策定方法	2
（4）アンケート調査	2
（5）計画の期間	2
（6）活動計画の策定過程	3
（7）計画の役割	4
2. 地域福祉活動とは	5
3. 諫早市社会福祉協議会について	6
（1）諫早市社会福祉協議会の使命（ミッション）と宣言	6
（2）市社協の目的及び組織運営	6
4. 地域福祉活動計画の体系	7
5. 地域福祉活動計画の基本理念と基本目標	8
基本理念	8
基本目標	8
6. 現状と課題及び活動目標	10
基本目標1 地域福祉を担う人づくり	10
活動目標①地域福祉活動担い手の育成	10
活動目標②ボランティアの育成及びボランティア活動等への支援	13
活動目標③福祉教育・福祉意識啓発活動の推進	14
基本目標2 共に支え合う地域づくり	15
活動目標①地区（校区）社協活動の推進	15
活動目標②顔見知りになるきっかけづくり	19
活動目標③住民同士の支え合いの促進	20
基本目標3 健康でいきいきと暮らせる地域づくり	24
活動目標①高齢者の健康の増進及び生きがいづくりの提供	24
活動目標②障害者の理解促進及び自立支援	26
基本目標4 地域福祉を支える仕組みづくり	27
活動目標①地域で相談・発見・解決できる仕組みづくり	27
活動目標②自立生活を支える福祉サービス機能の充実	29
活動目標③市社協の基盤強化	31
基本目標5 安全・安心に暮らせる地域づくり	32
活動目標①地域における見守り活動の支援	32
活動目標②災害時における支援体制の充実	34
7. 第3次地域福祉活動推進年次計画	36
8. 小地域福祉台帳	45
9. 資 料	68
（1）“地域福祉”に関するアンケート調査の概要	69
（2）地区（校区）社会福祉協議会へのヒアリング調査の概要	70
（3）第3次諫早市地域福祉活動計画策定委員会設置要領	72
（4）第3次諫早市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿	74
（5）第3次諫早市地域福祉活動計画ワーキンググループ名簿	75

1. 第3次諫早市地域福祉活動計画策定にあたって

(1) 地域福祉活動計画策定の目的

社会福祉法の制定に伴い、社会福祉の基本理念の一つとして「地域福祉の推進」が掲げられ、必要なサービスの内容やその量、その現状を明らかにし、提供する体制を整備するという「地域福祉計画」が市町村に義務づけられました。一方、地域住民の立場から「地域福祉計画」を推進し、地域住民や各種団体が主体的に策定する民間の活動・行動計画として「地域福祉活動計画」があります。

この地域福祉活動計画は、人権尊重を基本に、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせるよう地域づくりの取り組むべき仕組みを作り、計画的に進めていくためのものであり、地域住民や福祉活動を行う団体等が「地域福祉の担い手」として主体的に行動することができるよう策定するものです。

(2) 計画策定の経緯

第1次諫早市地域福祉活動計画（平成19年度～平成23年度）は、旧1市5町が合併した新諫早市となり、合併のもたらす効果を最大限に活かした地域のコミュニティの構築を重点に策定しました。第2次諫早市地域福祉活動計画（平成24年度～平成28年度）は、地域の人的・物的な社会資源を利用して「共に生き、支え合う社会」の実現に向けて策定しました。

第3次諫早市地域福祉活動計画（平成29年度～平成33年度）は、これまでの経過を踏まえさらに地域住民同士の支え合い活動を促進し、人と人との温もりのある関係性の構築を強固にするための事業展開を目指して策定します。

(3) 計画の策定方法

地域福祉の関係者による策定委員会及び作業を行うワーキンググループを組織し、第2次地域福祉活動計画の評価を行うとともに、平成27年度に実施した地域福祉に関するアンケート調査の結果等を踏まえ、第2次計画の見直しと新たな課題に対する事業計画を策定します（P3 図¹）。

(4) アンケート調査

無作為に抽出した市内20歳以上3,000人と地区（校区）社会福祉協議会（以下、「地区（校区）社協」と言う。）関係者500人に対し「地域福祉に関するアンケート調査」を行いました。

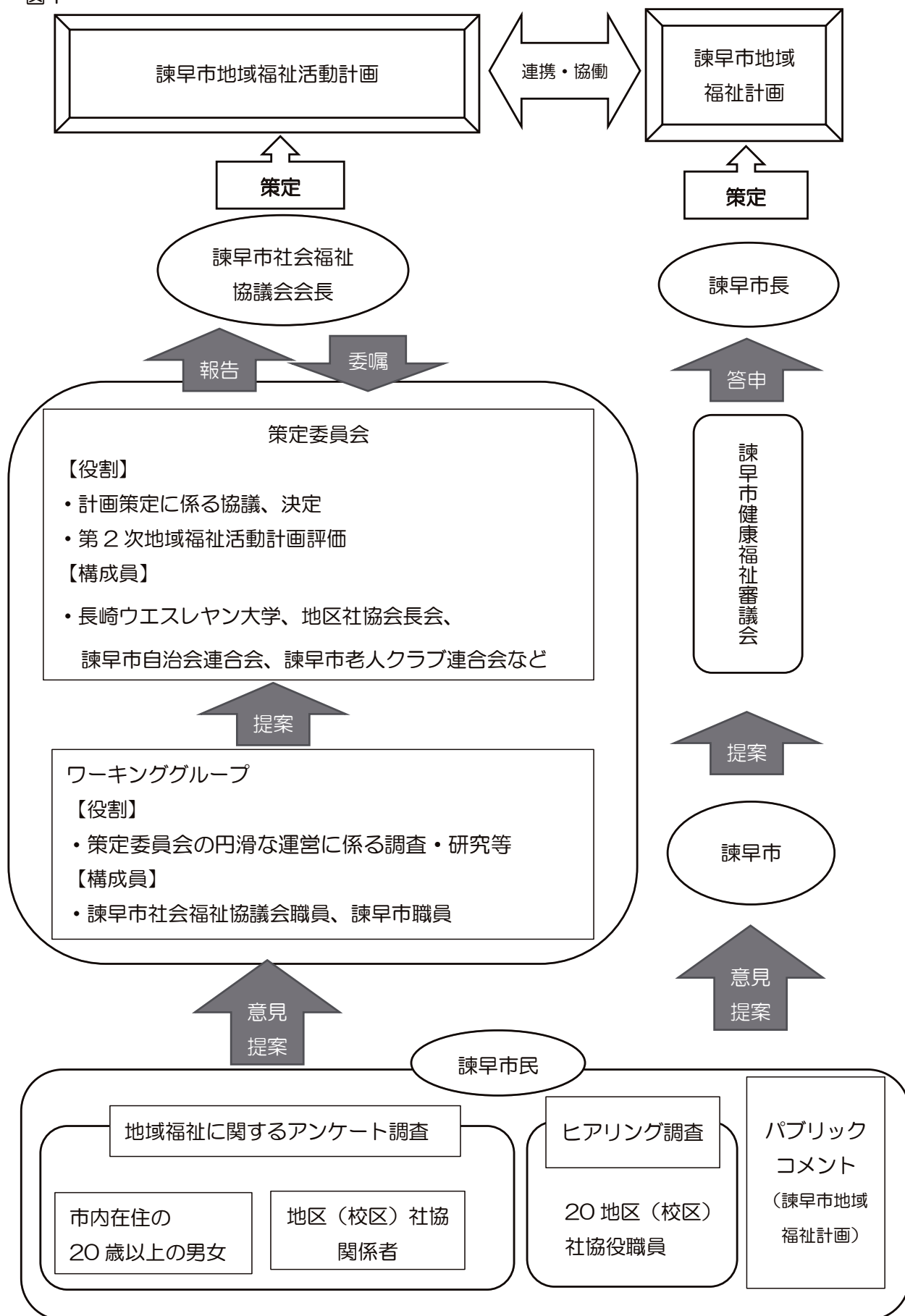
また市内全ての地区（校区）社協を対象としたヒアリング調査を行いました。

(5) 計画の期間

平成29年度から平成33年度までの5年間の計画とし、必要な場合は見直しを行います。

（６）活動計画の策定過程

図 1



(7) 計画の役割

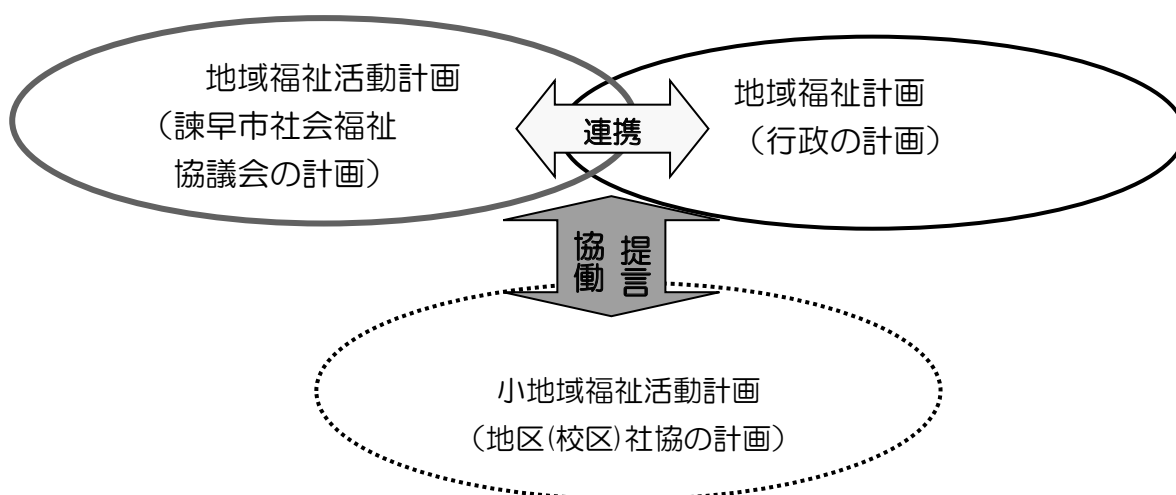
地域福祉を進めていくための計画には、地域福祉計画、地域福祉活動計画及び小地域福祉活動計画の3つの計画があります（P4 図²）。

「地域福祉計画」は、行政主体で健康福祉分野の施策を具体化する計画です。

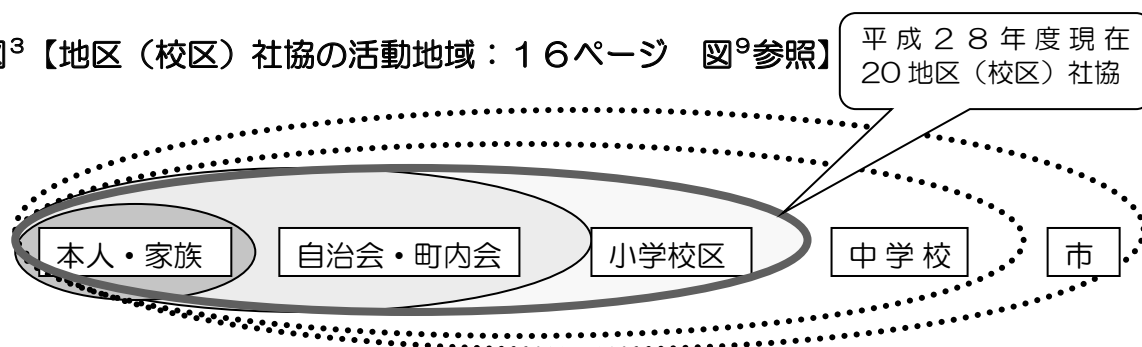
また「地域福祉活動計画」は、住民や民間団体の自主的な福祉活動を主体とした民間の活動計画です。それは住民の価値観に基づくものであり、行政が策定する「地域福祉計画」に対し、当事者・住民・関係機関・団体などの民間サイドから、地域福祉の推進のために提言したり、住民や社協の具体的な活動を提示するために策定するものです。そして「小地域福祉活動計画」は、地域（日常生活圏域）の実情に応じた民間独自の活動を具現化するための計画であり、より市民の生活に密着したものとなっています。

この3つの計画がそれぞれの機能を活かし、連携、協働することで、諫早市の地域福祉が推進されます。

図² 計画の相関関係



図³ 【地区（校区）社協の活動地域：16ページ 図⁹参照】



※ここでいう日常生活圏域とは、おおむね小学校を単位とした区域を指します。

2. 地域福祉活動とは

地域を基盤として、そこに暮らす住民が協働して安心して暮せる地域社会にしていくことであり、地域を築く主人公は住民一人ひとりです。

住民生活の課題を住民自ら解決していくためには、地域の人と人とのつながりを大切にし、それぞれの生き方を尊重しながらお互いに助けたり助けられたりする関係づくりが必要です。そしてさまざまな地域資源を利用しながら“共に生き、支え合う社会”を実現することです。このような地域社会づくりを進めようとするものが地域福祉活動です。



社会福祉協議会の使命は、住民の主体性を原動力とし、ノーマライゼーションの理念のもと、共に生き、共に支え合い、まちづくりを推進する地域社会（福祉コミュニティ）づくりを行うことです。また、住民の自治力（地域の福祉力）を高め、共に生き、共に支え合い、まちづくりを推進することが求められています。

3. 諫早市社会福祉協議会について

（１）諫早市社会福祉協議会の使命（ミッション）と宣言

諫早市社会福祉協議会（以下、「市社協」という）は、住民の福祉ニーズを把握しそこに立脚し、住民自身が共に暮らす全ての人のことを自分たちで考えて決定できるよう、地域の福祉力を高めていく役割があります。そして、以下のミッションを掲げ、環境の変化に迅速に対応するとともに地域の実情に応じた先駆的サービスの開拓に努め、住民の「ふだんのくらしのしあわせ」のために全力を注ぎます。

私たちは、住民の「ふだんのくらしのしあわせ」のために働きます。

私たちは、職員相互に協力し、実践力と専門性を高めます。

私たちは、住民と共に地域の福祉力を高めるために働きます。

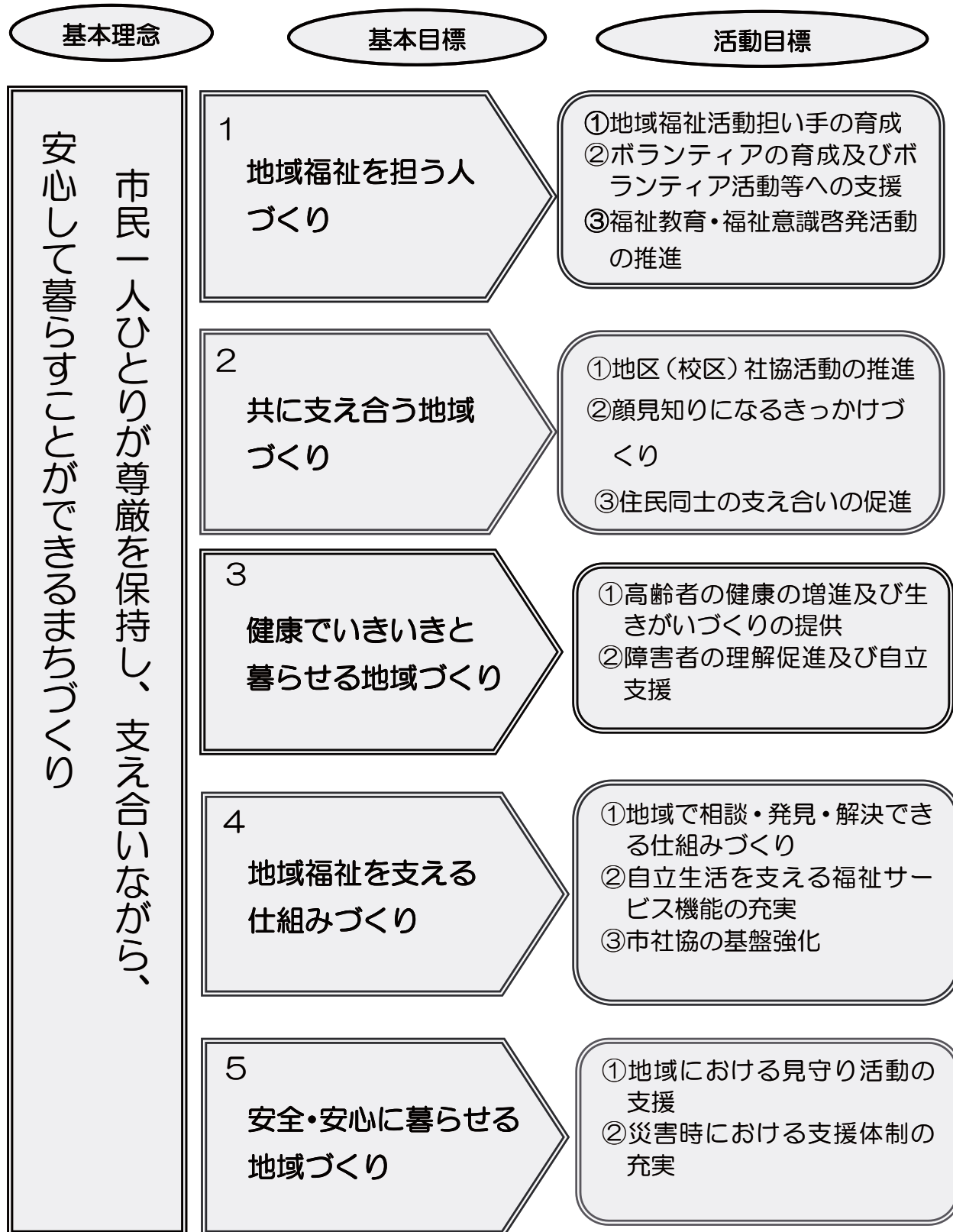
（２）市社協の目的及び組織運営

【目 的】 諫早市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とします。

【組織・運営】 諫早市内の地域住民や社会福祉に関する団体・組織・グループが構成員となり、参画協働により地域福祉の推進を図る団体です。

【各 種 事 業】 地域福祉活動、福祉教育及びボランティア活動、各種相談及び支援事業、在宅福祉サービス事業を大きな柱として事業を展開します。

4. 地域福祉活動計画の体系



5. 地域福祉活動計画の基本理念と基本目標

基本理念

本計画は、以下を基本理念とします。

市民一人ひとりが、尊厳を保持し、支え合いながら、
安心して暮らすことができるまちづくり

基本目標

基本理念を具現化するために、次の5つの基本目標を掲げて事業を推進します。

(1) 地域福祉を担う人づくり

市民が自分らしく生活を営もうとする意識や、他者の課題を自分の課題として認識し、住民自ら互いに支え合うことの大切さに気づき、住民同士が互いに支えたり、支えられたりする地域づくりを行います。

また、ボランティアセンターの基盤を強化するとともに、積極的な情報発信及びボランティア活動への参加促進とボランティアの養成を行います。更に、共生社会の実現を目指して、ノーマライゼーションの理念のもと「ともに生きる心」を育てる福祉教育に取り組みます。

(2) 共に支え合う地域づくり

地域住民が主体となって地域の課題を解決していくためには、そこに住む住民一人ひとりが意識して自発的に地域活動に取り組む福祉コミュニティの形成が必要です。地域福祉を考えて行動できる地域を担う住民が地域福祉活動に参画できるよう地区（校区）社協の運営支援を行います。

（３）健康でいきいきと暮せる地域づくり

市民誰もが、生きがいをもって健康で心豊かな生活を送るため、住み慣れた地域で趣味や文化活動など社会参加や地域交流の場づくりが必要です。

市民が身近なところで気軽に活動に参加できる環境整備に努めます。

（４）地域福祉を支える仕組みづくり

地域福祉を推進するには、まず市社協の基盤の強化が肝心です。

市社協は、住民組織で成り立っています。そして、地域福祉のビジョン（未来像）に対して共通認識を持ち組織改善を行うと共に社協の使命の実現に努めなければなりません。併せて市社協職員は社協の理念や使命を認識し、コミュニティソーシャルワーカーとしての専門性を高め、住民主体の活動に「力をそえる人」として役割を果たすことに専念します。そして、住民がやる気になるような福祉のまちづくりを目指します。

（５）安全・安心に暮せる地域づくり

急速な高齢化の進行と家族の在り方が変容する中、介護や子育て、消費者被害、貧困といった個人や家族だけでは解決が困難な事柄が増加しています。市社協は、このような問題を地域住民が、地域の課題として捉え、住民同士で解決していこうとする住民の支え合い活動に寄り添い支援し、地域の福祉力を高めていくことに努めます。また、地域で解決が困難な問題については、公的な機関と連携し、問題の解決を図り、市民が安心して暮らせる地域づくりを目指します。

6. 現状と課題及び活動目標

基本目標 1 地域福祉を担う人づくり

	活動目標	主な活動項目
①	地域福祉活動担い手の育成	地区社協リーダーの育成
②	ボランティアの育成及びボランティア活動等への支援	ボランティアセンターの機能強化
		ボランティア団体支援
		ボランティア活動の促進
		ボランティア連絡協議会の支援
		ボランティア養成講座の実施
③	福祉教育・福祉意識啓発活動の推進	福祉協力校の支援
		福祉体験学習の支援
		社会福祉大会の開催

活動目標① 地域福祉活動担い手の育成

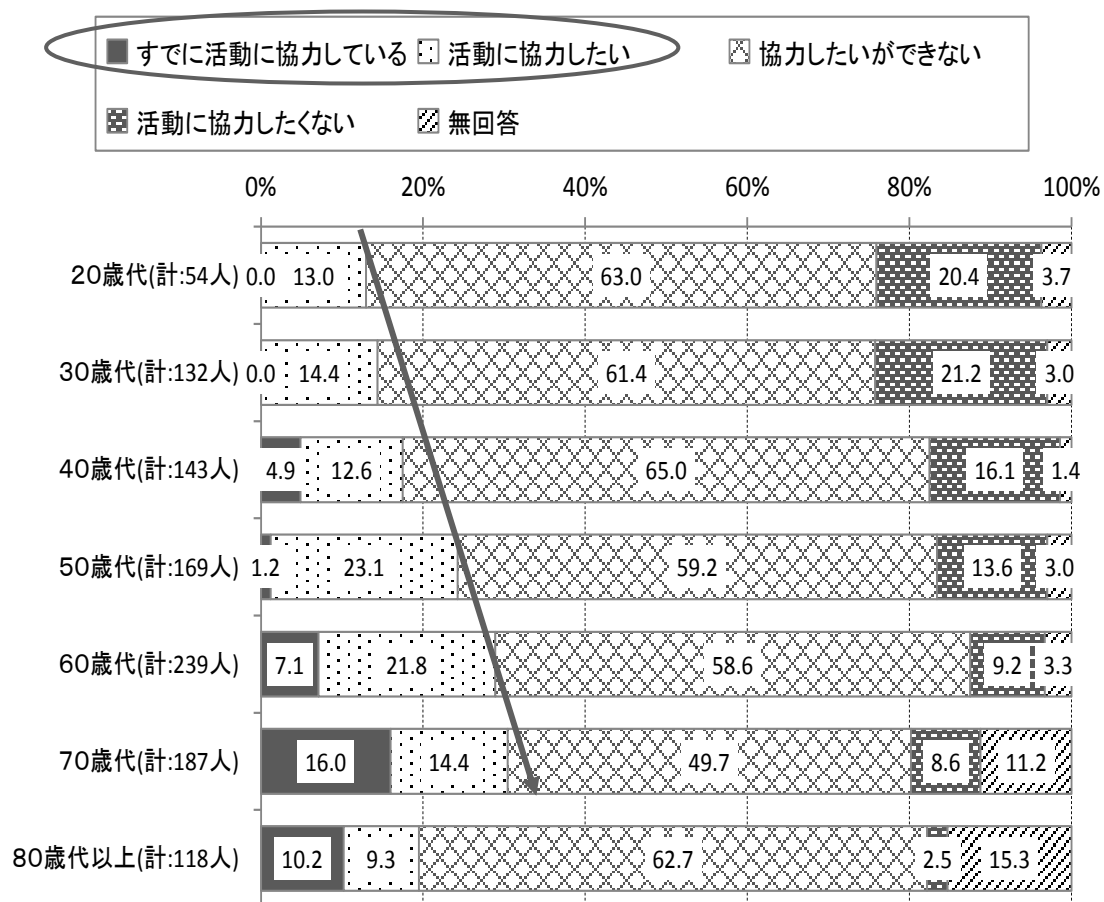
地区（校区）社協の活動には、住民同士の交流事業や見守り活動など、それぞれの地域の特色に応じた活動が行われています。そこで、地区（校区）社協で実施している活動に協力する意向を尋ねたところ、「すでに活動に協力している」または「活動に協力したい」と回答した人の割合は、70歳代までは年齢階層が高くなるに従って高くなる傾向にあります。高齢者の活力が地域活動の原動力となっているのが現状です（P 11 図⁵）。

なお、地区（校区）社協で実施している活動に、「協力したいができない」、「活動に協力したくない」と回答した人に、その理由を尋ねたところ、「仕事や家事で活動に協力する時間がない」と回答した人が最も多くなっています。また、「自分に何ができるのかわからない」、「活動している場所、機会を知らない」との理由もありました（P 12 図⁶）。

一方、地区（校区）社協へのヒアリング調査において、「新たなボランティアが何年も入ってこない」、「役員の成り手がいない」などの担い手不足の意見が出されています。

市社協は、情報不足から活動の参加に至らない住民に対し、地区（校区）社協の活動を始めとした地域福祉活動の情報発信や気軽に取り組める活動の紹介などを行い、活動の可能性がある住民に対してその活動のコーディネートを行い、幅広い世代の住民が地域福祉活動に参画できるよう環境整備を行います。

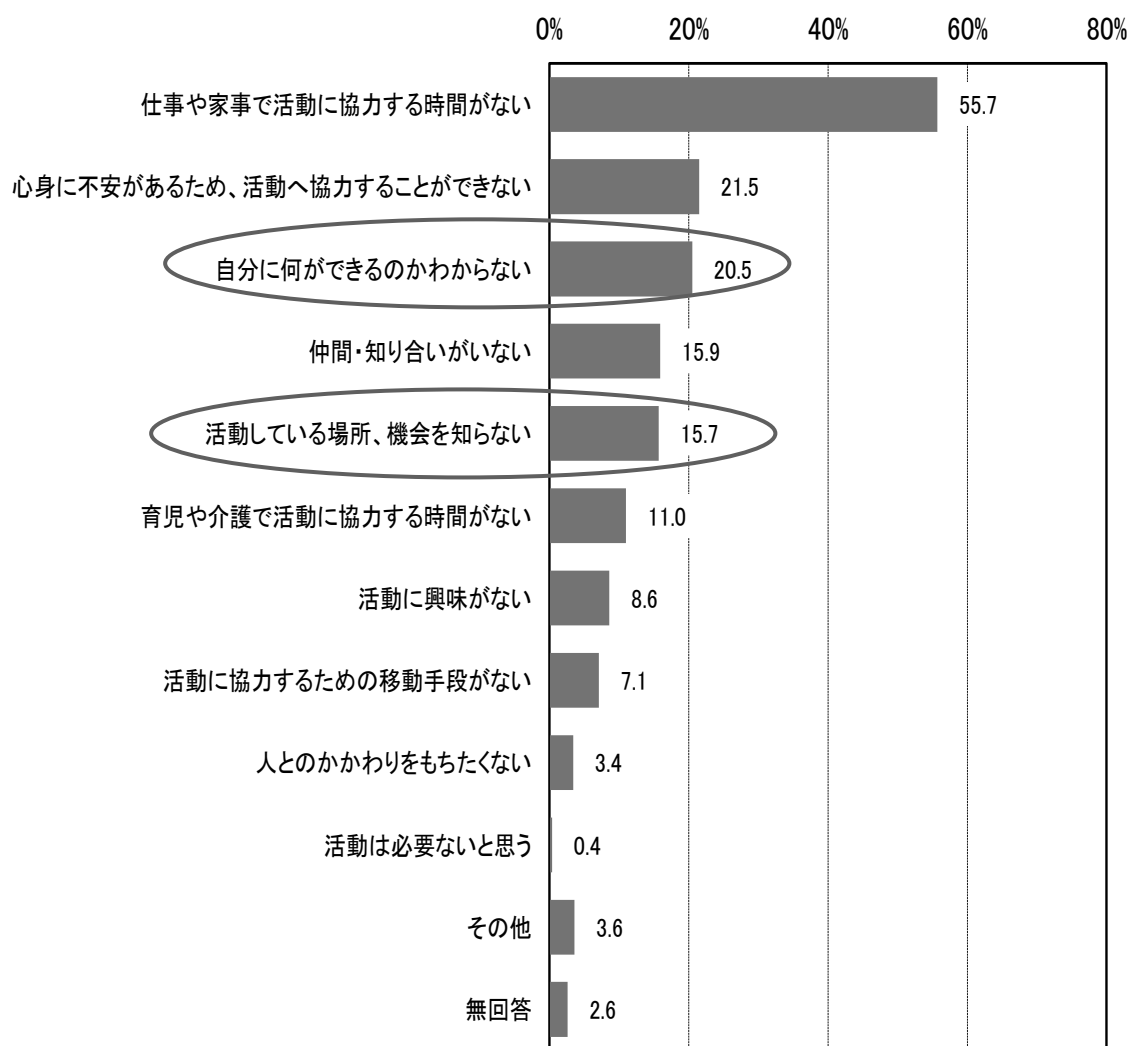
図⁵ 【あなたは地区社協の活動に協力してみたいですか。（年齢別）】



（市民アンケート調査から抜粋）

図⁶ 【「協力したいができない」、「活動に協力したくない」理由は何ですか。

（複数回答）】



（市民アンケート調査から抜粋）

計：743人

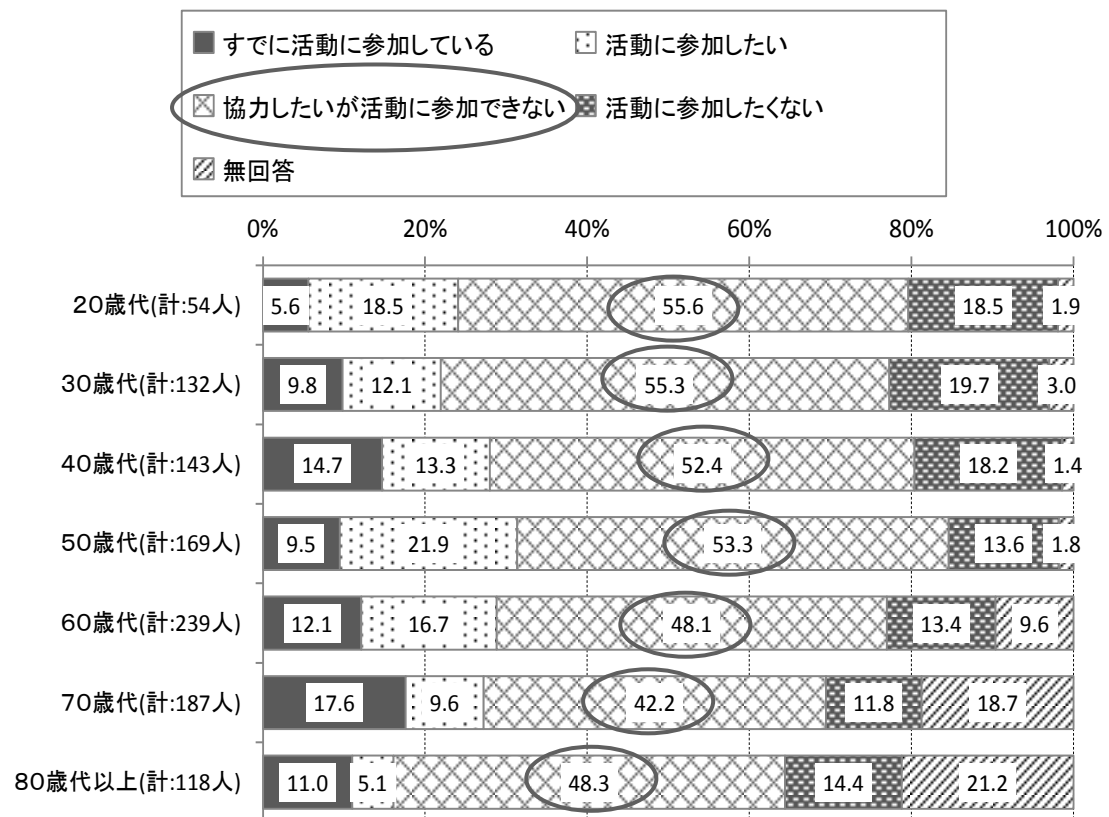
活動目標② ボランティアの育成及びボランティア活動等への支援

地域活動に限らず、全般的なボランティア活動について、尋ねたところ「活動に参加したい」との回答割合が高かったのは、50歳代（21.9%）、20歳代（18.5%）、60歳代（16.7%）となっています。

「協力したいが活動に参加できない」という回答がどの年齢層においても約半数を占めています（P13 図⁷）。自由回答によると70歳代や80歳代の人は健康不安など体力的なことがその理由のようです。生産年齢人口（15歳以上65歳未満）については、退職後に活動してみたいという意向が見受けられました。

そして、ボランティア活動について、もっと広報して欲しいという意見も寄せられています。

図⁷ 【あなたは、ボランティア活動に参加してみたいですか。（年代別）】



（市民アンケート調査から抜粋）

ボランティア活動の基本的な性格として、「自発性」、「無償性」、「公益性」、「創造性」があります。今日のボランティア活動は当事者の支援活動だけでなく、環境、文化、保健・医療、国際協力に関わる支援など活動領域は拡大しています。そしてボランティア自身も「生きがい」、「自己実現」といった考えが強くなりました。また、ボランティアはちょっとした出会いや気づき、こだわりや思いつきから活動が始まることが少なくありません。

市社協は、ボランティアセンターの基盤強化を図ると共に、各団体の連絡調整を図り、地域活動に取り組むボランティアの養成講座やボランティアの啓発活動に努め、ボランティア活動に取り組みやすい環境を整備します。

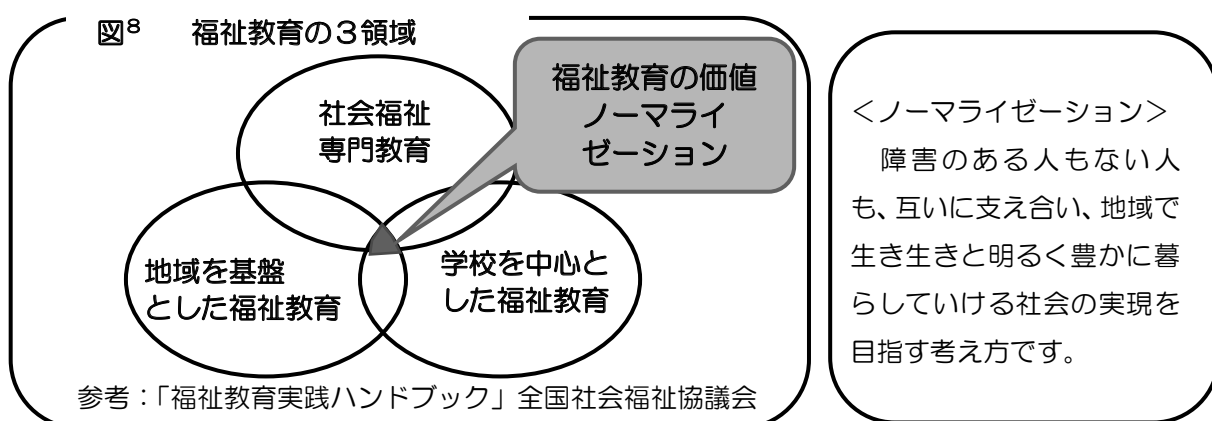
また、今後は実費等を必要とするボランティアの活動も想定されるため、市社協は、多様な活動のあり方とその連携について検討します。

活動目標③ 福祉教育・福祉意識啓発活動の推進

福祉教育の目標は、「人権尊重の精神を養うこと」、「個人としての主体的態度を育てること」、「地域社会の福祉問題を発見し、それを解決していく能力を高めること」にあります。

児童・生徒から成人までの幅広い層を対象に福祉教育を実践し、ノーマライゼーションの具現化を目指し、「共に生きる心」を育み、福祉コミュニティの構築を図ります。

また、共に生き、支え合う社会の実現のためには、地域住民一人一人が福祉に対する理解等を深めていくことが重要です。そのために、市社協は、高齢者や障害者の疑似体験だけではなく、当事者の「生活のしづらさ」や内部障害や精神障害等に代表される「見えにくい障害」について、社会としてどのような理解や支援が必要となるのか、当事者の経験と生活体験を生かした交流を図りながら、共に生きる力を学ぶ仕組みを作っていきます。



基本目標2 共に支え合う地域づくり

	活動目標	主な活動項目
①	地区（校区）社協活動の推進	地区（校区）社協の運営・活動支援
		小地域福祉活動計画の策定支援
		福祉協力員の設置促進
②	顔見知りになるきっかけづくり	世代間交流活動支援
		地区福祉懇談会の開催支援
③	住民同士の支え合いの促進	地域の寄り合い所づくり支援
		地域の助け合い活動の支援

活動目標① 地区（校区）社協活動の推進

現在、諫早市には20の地区（校区）社協が組織されており、活動にあたっては、自治会、民生委員・児童委員、ボランティアなどが中心になり、地域の実情に応じて、それぞれの特色を活かした住民相互の福祉活動が行われています（P16 図⁹）。

地区（校区）社協の認知度を尋ねたところ、「名称も活動内容も知っている」と回答した人が20.1%でした（P17 図¹¹）。

図¹²のように年齢階層別にみると、「名称も活動内容も知っている」と回答した人の割合は年齢階層が高くなるに従って高くなる傾向にあり、80歳代以上では33.1%と、3人に1人が地区（校区）社協を認知し、かつ活動内容を知っていることが分かります。

これは、「ふれあいいきいきサロン」「ひとり暮らし高齢者の集い」「ふれあい食事サービス」など地区（校区）社協の活動が、高齢者を対象とした活動が活発に展開されているためと推測されます。

また、一方現在、地区（校区）社協の関係者に、活動をしている中で困っていることを尋ねたところ、「活動メンバーが高齢化してきている」と回答した人が最も多くなっています。次いで、「活動メンバーが固定化してきている」、「地域のつながりが希薄化している」と続いています（P18 図¹³）。

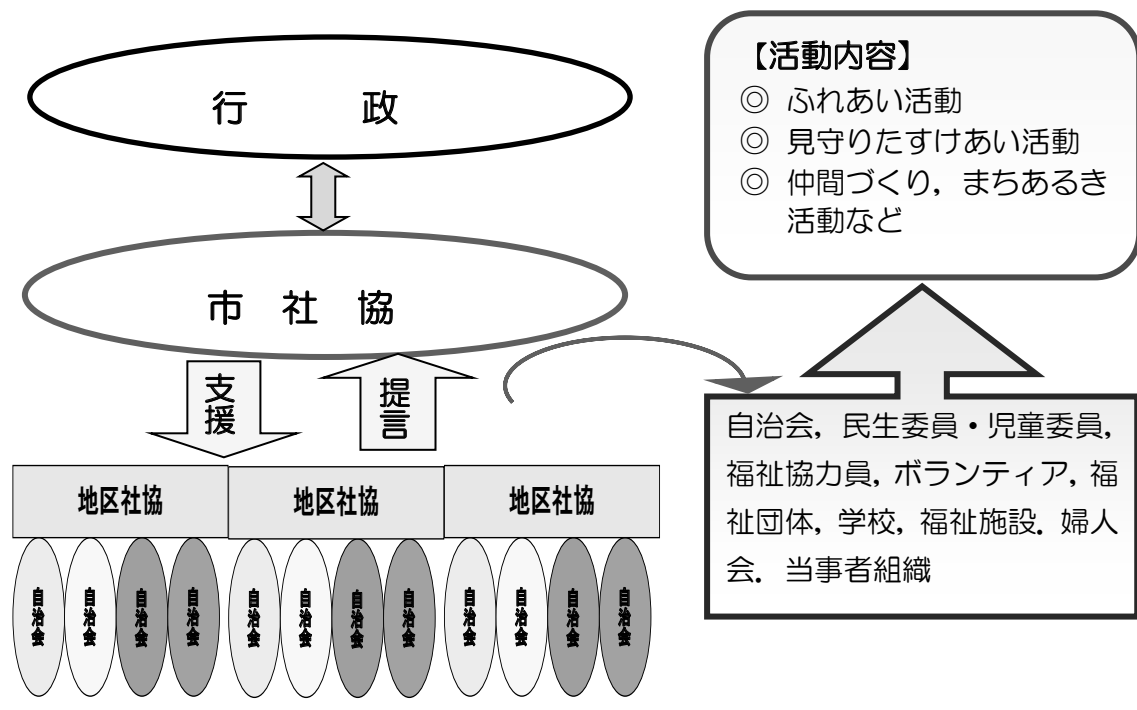
今後、地区（校区）社協の運営の安定と円滑化及び活性化を図るため、地区（校区）社協の基盤の強化と各地区（校区）社協間の連携（P16 図¹⁰）、その存在を認識してもらうための施策を講じ、地区（校区）社協の活性化と福祉活動の促進を図れるよう支援します。

図⁹

地区（校区）社会福祉協議会とは・・・

おおむね小学校区を単位とする小地域において、地域やその住民が抱えている課題（悩みや問題）を発見し地域でその解決に向けて取り組んでいくための住民組織であり、地域の各種団体や住民が横のつながりをもって構成されているものが地区（校区）社会福祉協議会です。

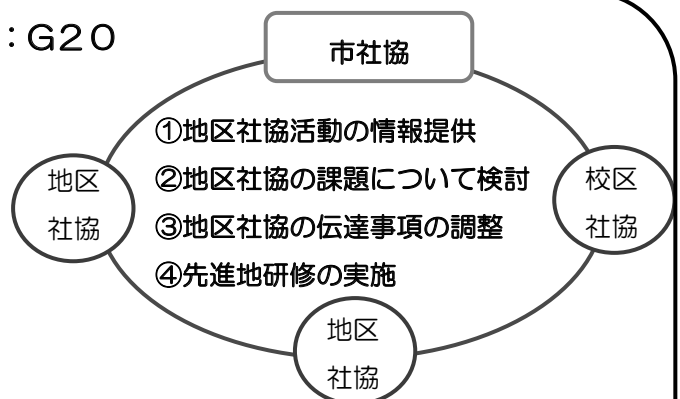
それは法制上の基礎をもつ市社協の下部組織でなく、地域住民自らが自主的に結成する組織です。そして市社協と地区（校区）社協が互いに連携を保ちながら活動を実践します。



図¹⁰ 地区（校区）社協間の連携：G20

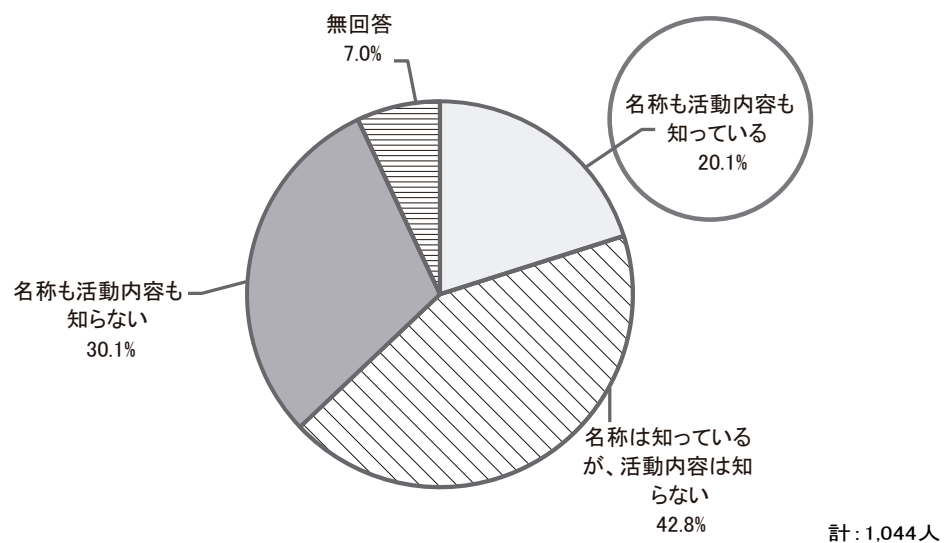
地区社協G20委員・・・

地域ニーズの掘り起こしや地区（校区）社会福祉協議会の活動の情報交換等を行い、きめ細かい地域生活支援の仕組みを作り出すことを目的としています。



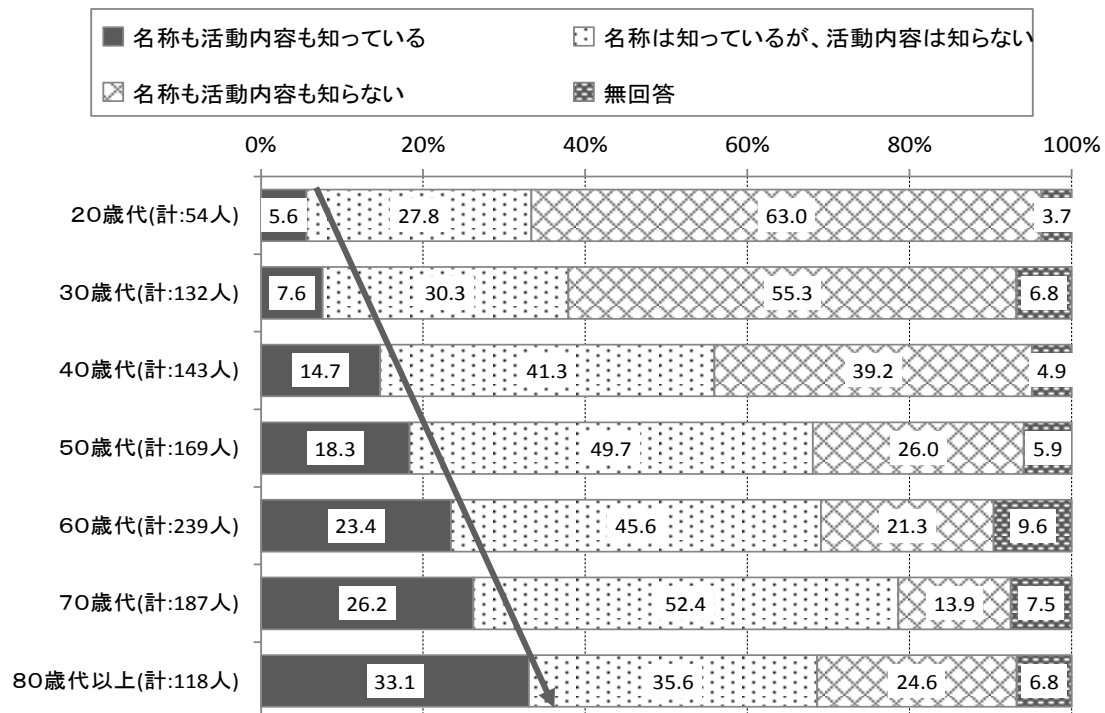
※G20のGには、グループのG、頑張らんばのG、good「良い」のG、grow「育つ」のG、glory「繁栄」のGなどの意味が込められています。

図¹¹ 【お住まいの地域の地区（校区）社会福祉協議会をご存じですか。】



（市民アンケート調査から抜粋）

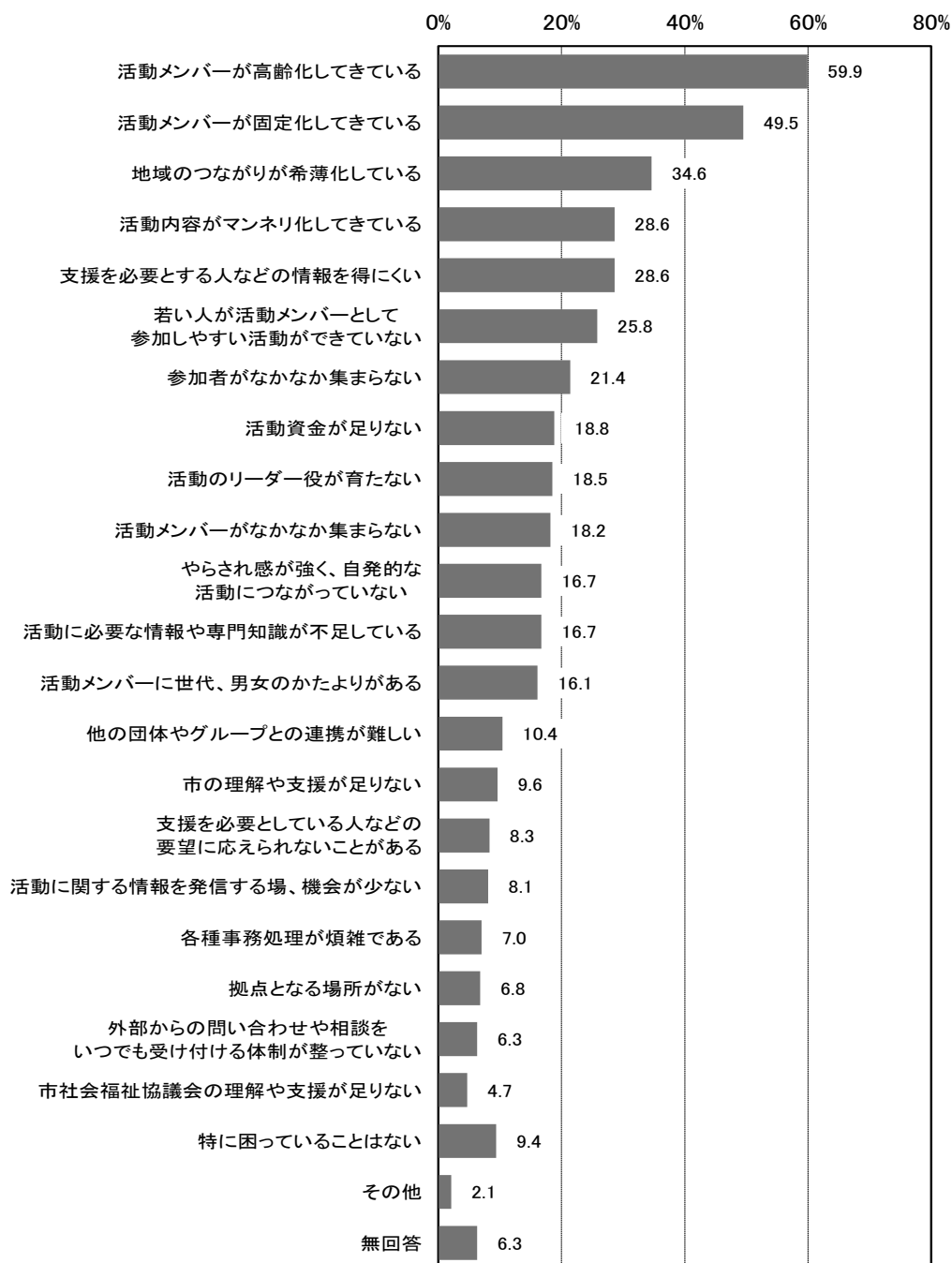
図¹² 【お住まいの地域の地区（校区）社会福祉協議会をご存じですか。】
（年齢別内訳）



（市民アンケート調査から抜粋）

図13

【地区（校区）社会福祉協議会の活動をしている中で困っていることは何ですか。
（複数回答）】



計：384人

（地区（校区）社会福祉協議会アンケート調査から抜粋）

活動目標② 顔見知りになるきっかけづくり

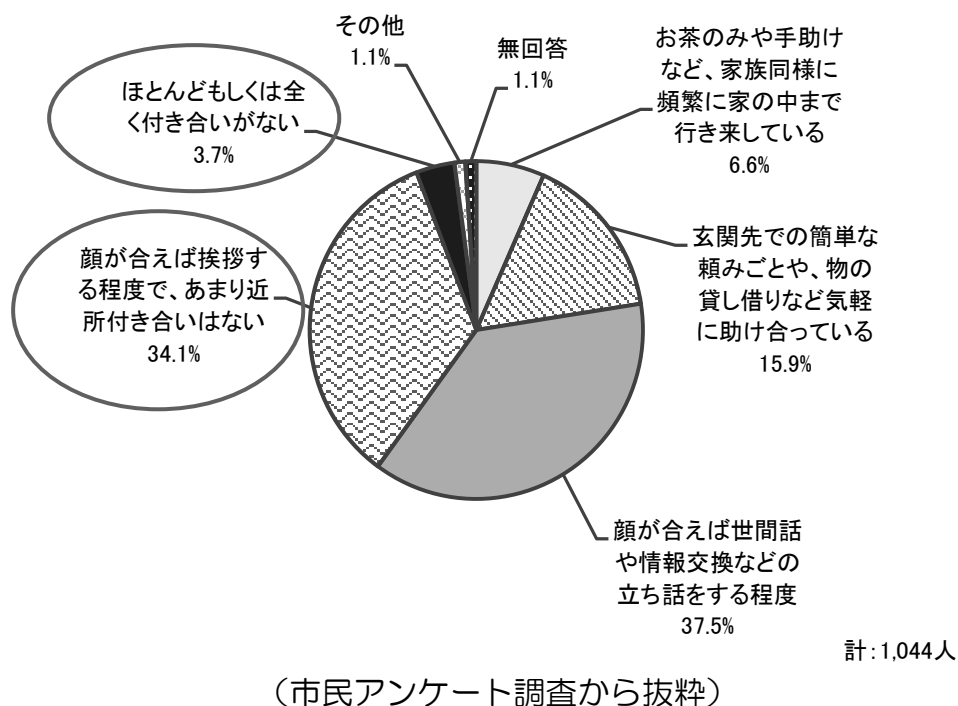
近所との付き合いの程度を尋ねたところ、「顔が合えば世間話や情報交換などの立ち話をする程度」と回答した人の割合が最も高く、37.5%となっています。次いで、「顔が合えば挨拶する程度で、あまり近所付き合いはない」（34.1%）、「玄関先での簡単な頼みごとや、物の貸し借りなど気軽に助け合っている」（15.9%）と続いています。

「ほとんどもしくは全く付き合いがない」、「顔が合えば挨拶する程度で、あまり近所付き合いはない」の近所付き合いしかしていない市民の割合は37.8%であり、市民の5人に2人が親密な近所付き合いをしていないことが分かります（P19 図¹⁴）。

地域における人と人との関わり合いが少なくなり、昔ながらの助け合い活動などの近所付き合いの希薄化がみられます。

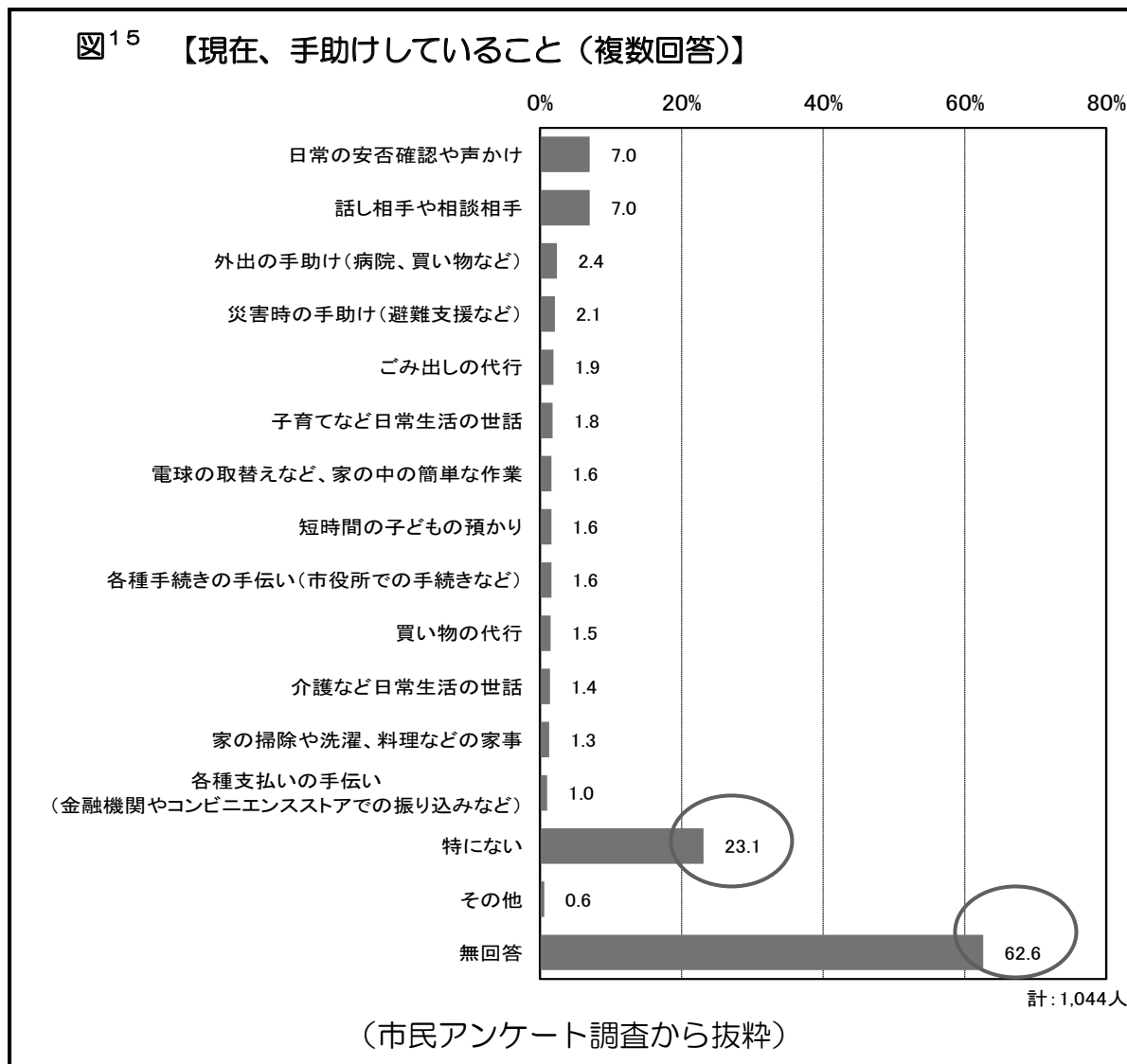
あいさつを交わすだけにとどまらず、誰もが顔見知りになり、同年代・世代間の交流を持つことができる場づくりや事業を推進します。

図¹⁴ 【あなたは、ご近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。】



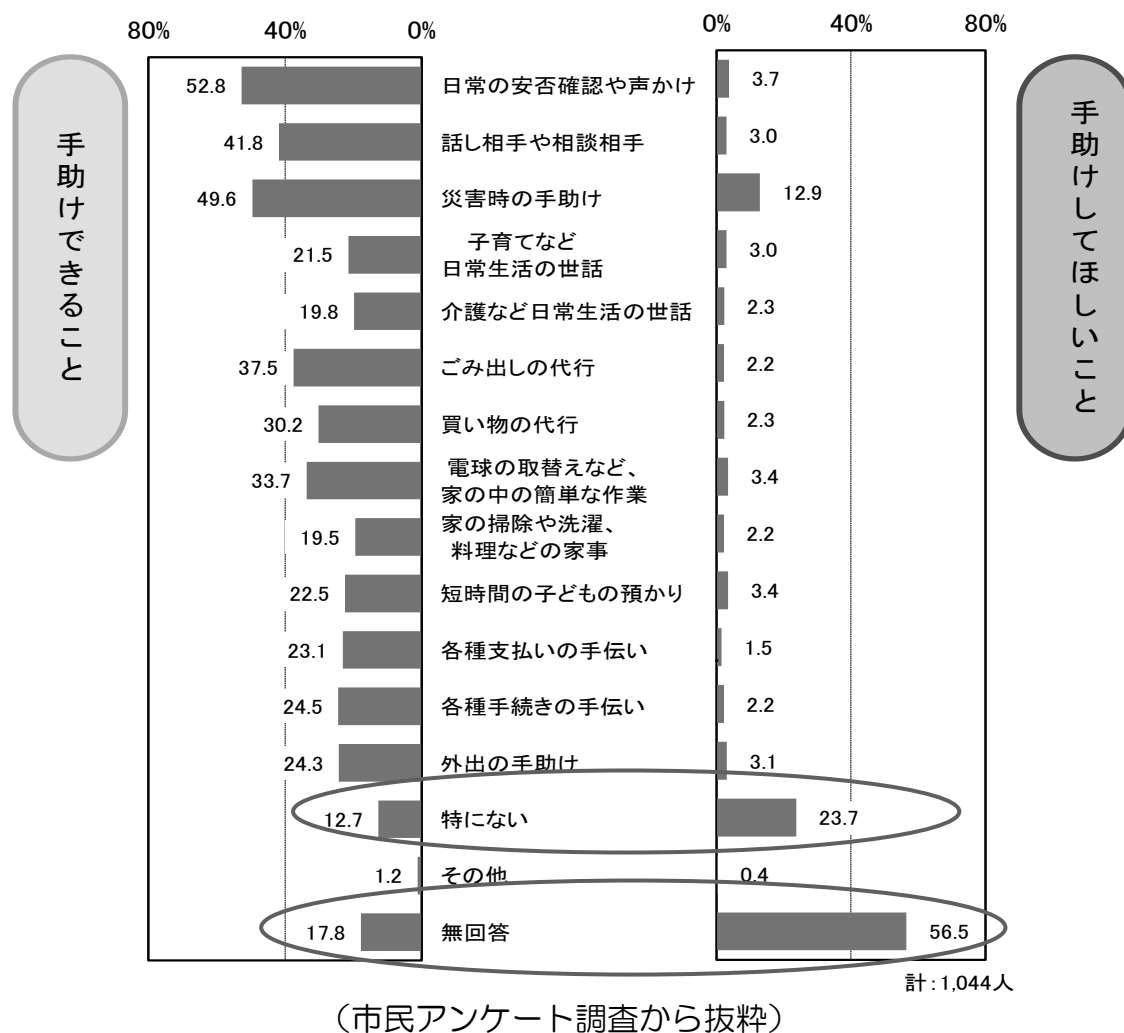
活動目標③ 住民同士の支え合いの促進

ご近所の困っている方に対して、現在、手助けしていることについて尋ねたところ、「日常の安否確認や声かけ」と回答した人が最も多く、次いで、「話し相手や相談相手」、「外出の手助け（病院、買い物など）」と続いています。一方で、「特にない」と無回答が多くありました（P 20 図¹⁵）。



また、手助けして欲しいことに比べて手助けできることの方が総じて多くなっている調査結果は、地域にある生活課題の多くが市民による互助で、ある程度解決できる可能性を示唆しています（P 21 図¹⁶）。

図¹⁶ 【地域でどんな手助けをしてほしいか／できるか（複数回答）】



一方、手助けが必要なことは、特にないと答えた人が、自立しているのか、単なる遠慮なのか、実態の把握が十分でないが、無回答を含めて個人の受援力（ボランティアの援助を受け入れる力）の低さがうかがわれます。

さらに、地域での助け合いを推進していくために、住民のひとりとしてできることは何かと尋ねたところ、「日頃から隣近所とのつながりをもつように心がける」と回答した人が最も多くあります（P 22 図¹⁷）。

また、今後、地域での助け合いを推進していくための施策について必要なものを尋ねたところ、「住民がともに助け合う仕組みづくりへの支援」、「誰もが気軽に集まれる場づくり（寄り合い所など）」などの回答が多くありました（P 23 図¹⁸）。

地区（校区）社協へのヒアリング調査においても、今後やってみたい活動とし

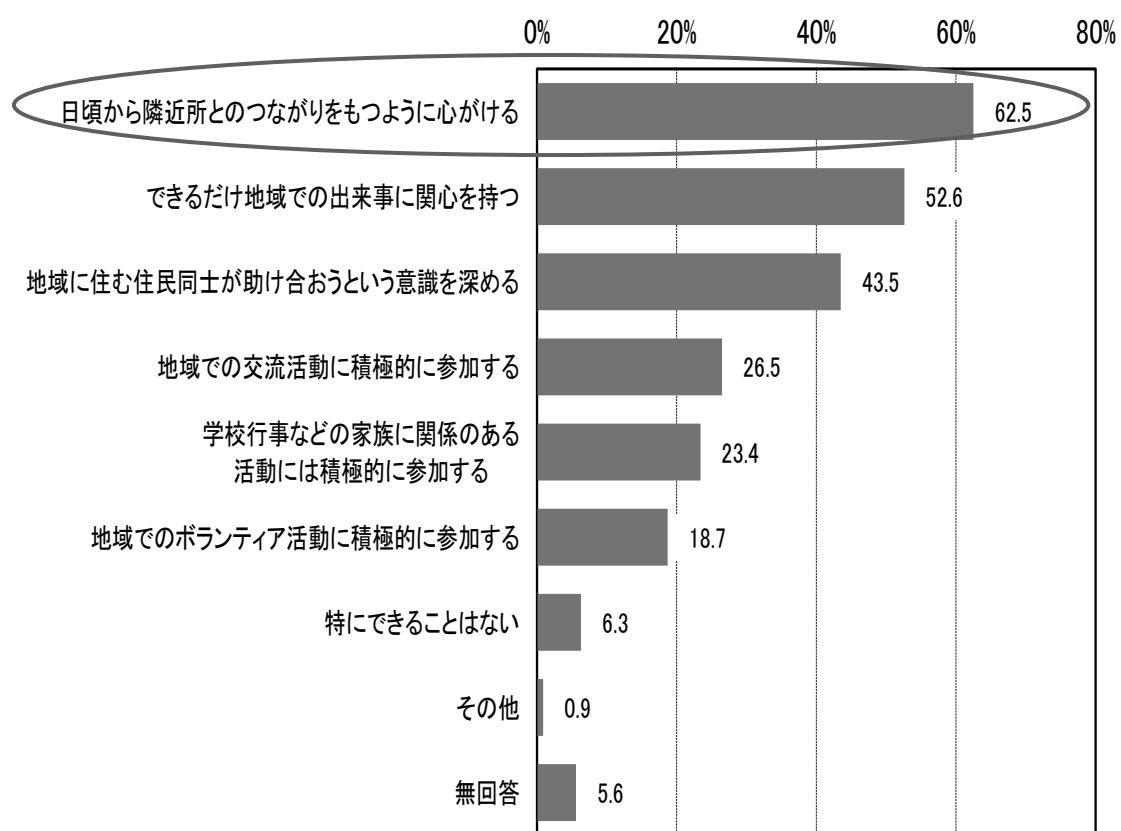
て「地域の人が自由に集える寄合い所の設置」、「高齢者を対象とした生活支援（簡単な作業等の手伝い等）」の意見が出されています。

これらのことを踏まえて、住民の要望と地域活動の意欲を繋ぐよう、地区（校区）社協と連携して、見守りネットワークや福祉協力員活動の強化を図り、小地域の課題、活動体制に沿った地域における支え合い活動を推進します。

また、住民が共に助け合う地域づくりができるよう、誰もが気軽に集まれる場づくり（寄り合い所など）の支援を行い、地域の支え合いシステムの構築を目指します。

図¹⁷

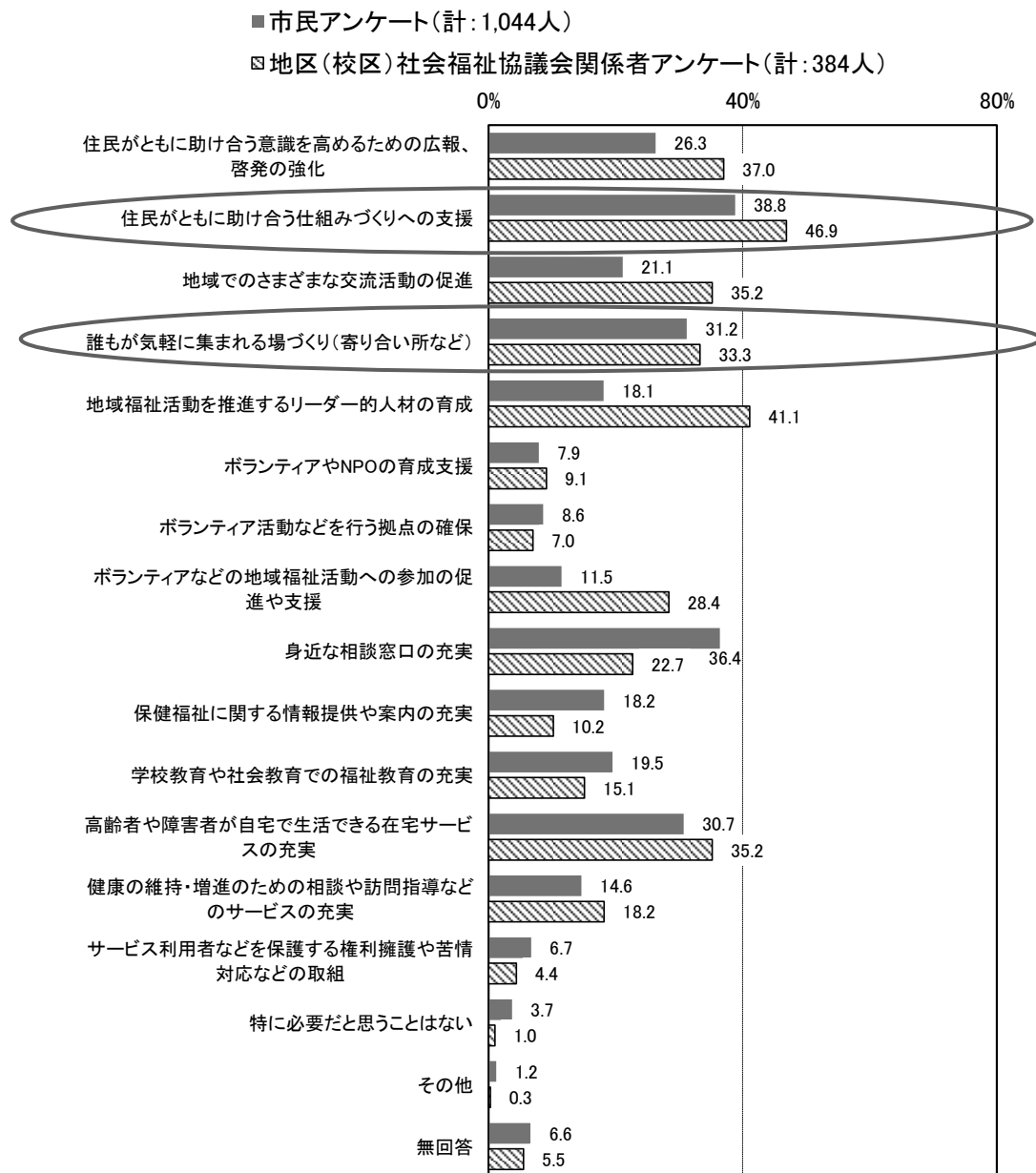
【今後、地域での助け合いを推進していくために、住民のひとりとして、あなたができることは何か（複数回答）】



計: 1,044人

（市民アンケート調査から抜粋）

図¹⁸ 【今後、地域での助け合いを推進していくために、どのような施策が必要だと思いますか。（複数回答）】



(市民アンケート調査及びから地区(校区)社会福祉協議会関係者アンケートから抜粋)

基本目標3 健康でいきいきと暮せる地域づくり

	活動目標	主な活動項目
①	高齢者の健康の増進及び生きがいづくりの提供	高齢者美術手工芸作品展の開催
		地域福祉センター上山荘の運営
②	障害者の理解促進及び自立支援	障害者作品展（心の花展）の開催
		高次脳機能障害者サロンの実施

活動目標① 高齢者の健康の増進及び生きがいづくりの提供

お住まいの地域の課題について尋ねたところ、「高齢者の社会参加や生きがいづくりの推進」について多くの回答がありました（P25 図¹⁹）。

高齢者がいつまでも元気で充実した生活を送るためには、心身の健康の維持が必要です。市社協は、学びを通じて心を豊かにする生きがいづくりの場や社会参加の機会を設け、健康の増進を図ります。

【高齢者美術手工芸作品展の開催】



【来場者の感想（抜粋）】

- ・皆様それぞれに心を込めて作っておられる感じが感じられます。
- ・大変素晴らしい作品の数々でした。私も何か挑戦したくなりました。
- ・年齢を感じさせない作品でした。

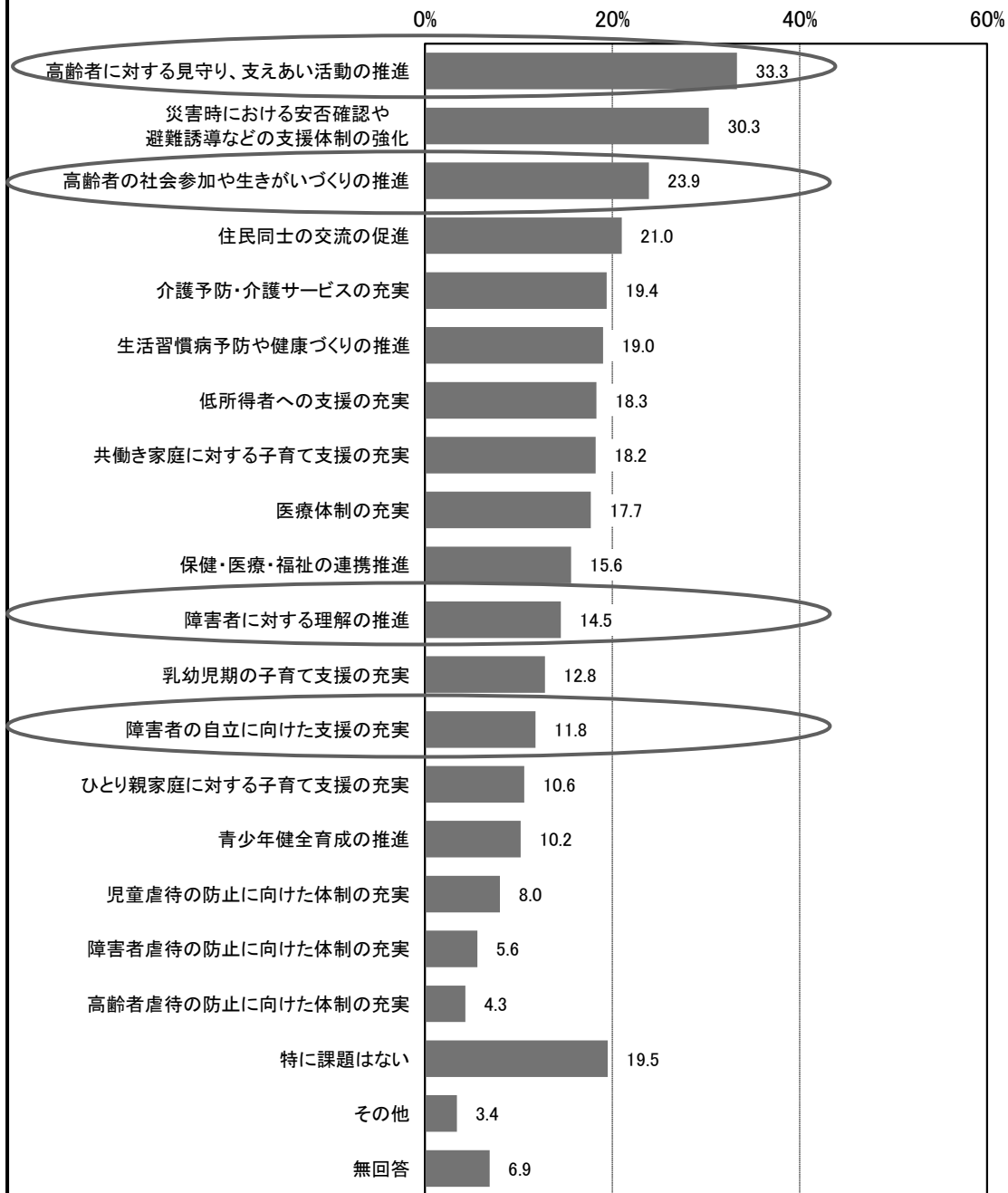
【上山荘生きがい学び事業】

地域福祉センター上山荘において、高齢者に対して健康の増進と、教養の向上を目指した生きがいづくりのための各種講座を開催しています。



19

【あなたがお住まいの地域には、どのような課題があると思いますか。
(複数回答)】



計:1,044人

(市民アンケート調査から抜粋)

活動目標② 障害者の理解促進及び自立支援

お住まいの地域の課題について尋ねたところ「障害者に対する理解の促進」や「障害者の自立の支援に向けた支援の充実」の回答がありました（P 25 図¹⁹）。

住み慣れた地域で障害者が安心して自立した生活を送るためには、周囲の理解や支援が必要です。障害者の個性や才能を生かした芸術活動は、障害者の心を豊かにし、また社会参加の促進にも繋がります。

市社協は、障害者の集う場の提供や交流の機会を設けることで、地域住民の障害者への理解と自立に向けた支援を図ります。

【障害者美術手工芸作品展（心の花展）の開催】



【来場者の感想（抜粋）】

- 皆さんいろいろと工夫されていると感じました。
- それぞれ一生懸命描いたり作ったりされているのがわかりました。
- とても素晴らしい作品がいっぱいでした。私もまた挑戦したいと思いました。

【高次脳機能障害者サロンひまわり】



市社協は、高次脳機能障害者の社会参加と自立に向けての支援、また、地域の人たちの理解を深めるため、高次脳機能障害者とその家族を対象に集いの場を提供しています。

基本目標 4 地域福祉を支える仕組みづくり

	活動目標	主な活動項目
①	地域で相談・発見・解決できる仕組みづくり	ふれあい福祉相談事業の実施
		専門相談事業の実施
②	自立生活を支える福祉サービス機能の充実	資金貸付事業等の実施
		日常生活自立支援事業の受託
		在宅者の生活支援
③	市社協の基盤強化	社協組織運営の基盤強化
		社協会員加入促進
		自主財源の確保

活動目標① 地域で相談・発見・解決できる仕組みづくり

困ったことや心配ごとを、誰に（どこに）相談したかと尋ねたところ、「友人・知人」と回答した人が最も多く、次いで、「家族・親戚」「職場の同僚」と続いています。

市社協への窓口相談すると回答した人は、少数です（P 28 図²⁰）。

相談内容について尋ねたところ、「子どもの成長や教育についての相談」と回答した人が最も多く、次いで、「病気についての相談」、「介護についての相談」と続いています。

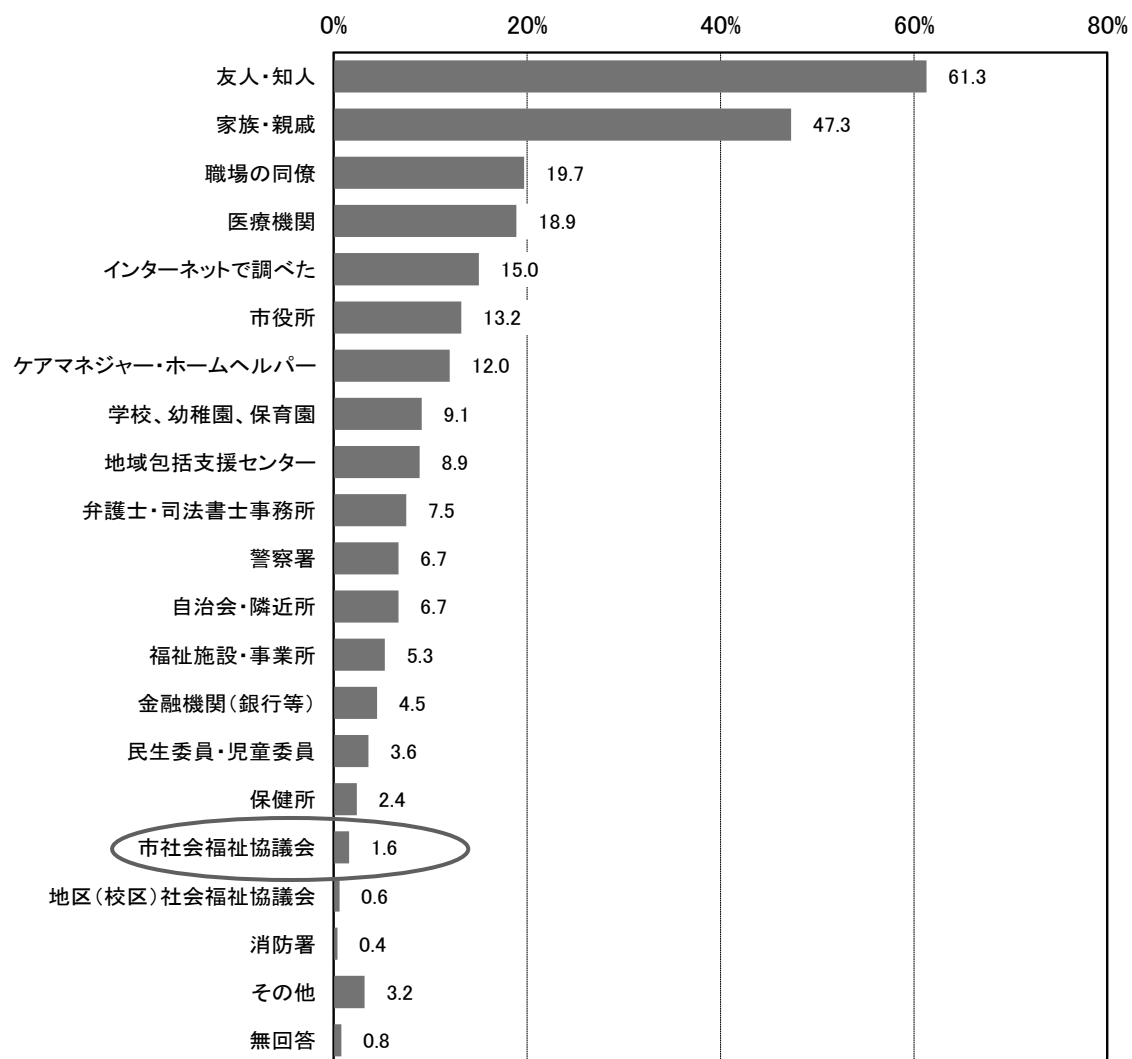
一方「相談したことがない」と答えた人が多くありました（P 29 図²¹）。心配ごとがないということが理想ではありますが、言葉どおりに受け止め難いところもあります。自分のことを公にしたくないと思う気持ち、あるいは相談の窓口が分からないといったことも念頭におく必要があります。

市社協は、「ふれあい福祉相談事業」を実施しており、日頃のたあい無い愚痴を聞いてくれる「よろず相談」受けています。相談員は、民生委員・児童委員等を経験された方で、敷居の低い相談窓口を目指しています。

また、私人間トラブルなど司法に係る専門相談事業も行っています。市社協の相談に訪れる人が少ない結果となっていることを踏まえて（P 28 図²⁰）、市民に役立つ資源を活用してもらうためにも周知活動を行います。そして、どこに相談したらよいかわからないといった人たちの最初の相談の入り口となり、生

活課題への迅速な対応ができるよう環境を整備します。また、相談からニーズを発見し、解決のための先駆的な事業の開発に努めます。

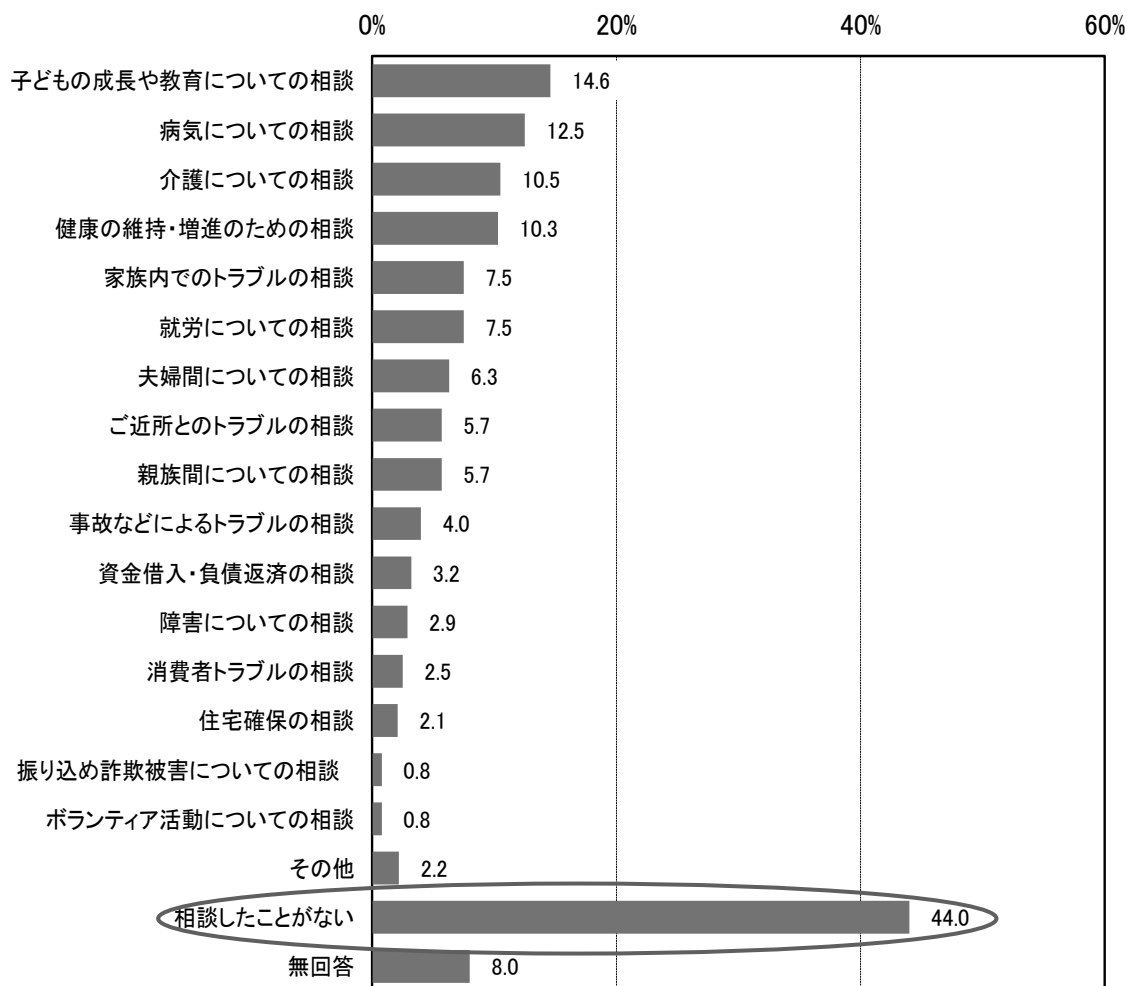
図²⁰【困ったことや心配ごとを、誰に（どこに）相談しましたか。（複数回答）】



計：507人

（市民アンケート調査から抜粋）

図21 【他人に相談した内容について（複数回答）】



計:1,000人

（市民アンケート調査から抜粋）

活動目標② 自立生活を支える福祉サービス機能の充実

2000年の社会福祉基礎構造改革によって介護サービス、障害者福祉サービスの利用システムが契約制度に転換されました。利用者と事業者が対等な立場で両者の合意のもと契約を交わさなければなりません。また、虐待問題や消費者被害など、権利擁護の制度や救済システムを利用し、安心してその人の望む暮らしを支援していく、環境の整備が必要です。

市社協は、当事者を取り巻く関係機関と連携を図り、自立生活を支えるまちづくりに努めます。

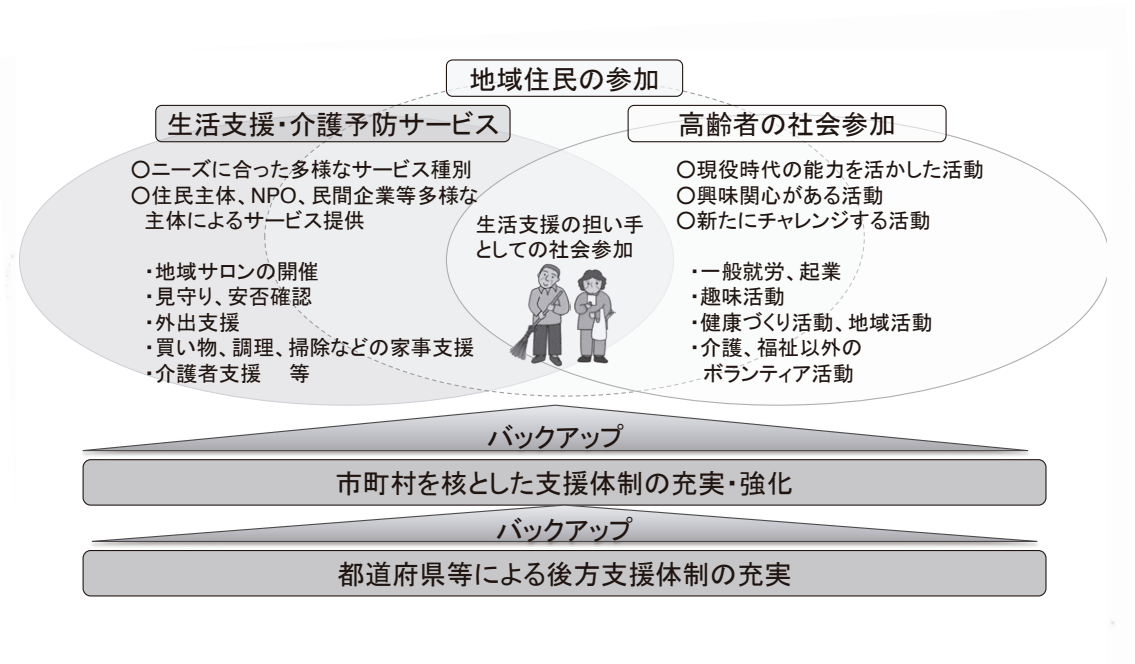
また、諫早市では、平成31年には高齢化率が30%を超える見込みであり、高齢者の単身世帯や認知症高齢者の増加が懸念されています。高齢者がいつまでも住み慣れた地域で過ごすためには、医療・介護・予防・生活支援が切れ目なく提供され、高齢者の生活を地域で支えていくための仕組みづくりが必要です。

「今後、地域での助け合いを推進していくために、どのような施策が必要だと思いますか」の質問においても、最も多い回答は「住民がともに助け合う仕組みづくりへの支援」でした（P23 図¹⁸）。このことから住民の地域福祉に対する関心や参加意欲があることが伺えます。

市社協は、このような状況を踏まえ、高齢者を含めた地域住民同士の見守り活動や住民一人一人の持つ能力や経験を生かした支え合い活動を推進します。

また、行政が取り組む「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、地域の特性を生かした生活支援の仕組みづくりを推進します。

図²² 地域包括ケアシステムにおける住民参加のイメージ図



〔参考〕平成26年11月厚生労働省「全国介護保険担当担当課長会議資料」

活動目標③ 市社協の基盤強化

近年、会費や寄付金、共同募金配分金などの民間財源が減少するなど社協の財政状況は厳しくなっています。

市社協は、このような厳しい現状を認識し、社協が担う役割を果たすために必要な財源づくりに取り組みます。

特に、社協会費は、市民が社協に参加し地域福祉を担っているという観点から、地域の実情に応じた活動が展開できるよう、会費の効果的な活用に努めます。そして、市社協が住民に直結した民間組織として、存在意義を市民に周知し理解を得ることで会員の加入促進を図ります。

更に、市社協に勤務する職員が、専門的知識・技術をもって市民に対する間接的及び直接的援助が行えるようコミュニティソーシャルワーカーとしての質の向上に努めます。

社協会員制度とは・・・

住民主体、住民参画を基調とする社協は、地域福祉活動を進めるため、住民や団体による会員制度を根幹にしています。

会員制度は、市民一人ひとりが地域福祉の担い手として、福祉活動に参画していただくためのものです。

会員の皆さまからいただいた「会費」は、地域福祉を推進するための事業の財源となります。

基本目標5 安全・安心に暮らせる地域づくり

	活動目標	主な活動項目
①	地域における見守り活動の支援	見守りネットワークの推進
		民生委員・児童委員との連携
②	災害時における支援体制の充実	災害ボランティアセンターの設置体制の整備
		災害ボランティアネットワークづくり

活動目標① 地域における見守り活動の支援

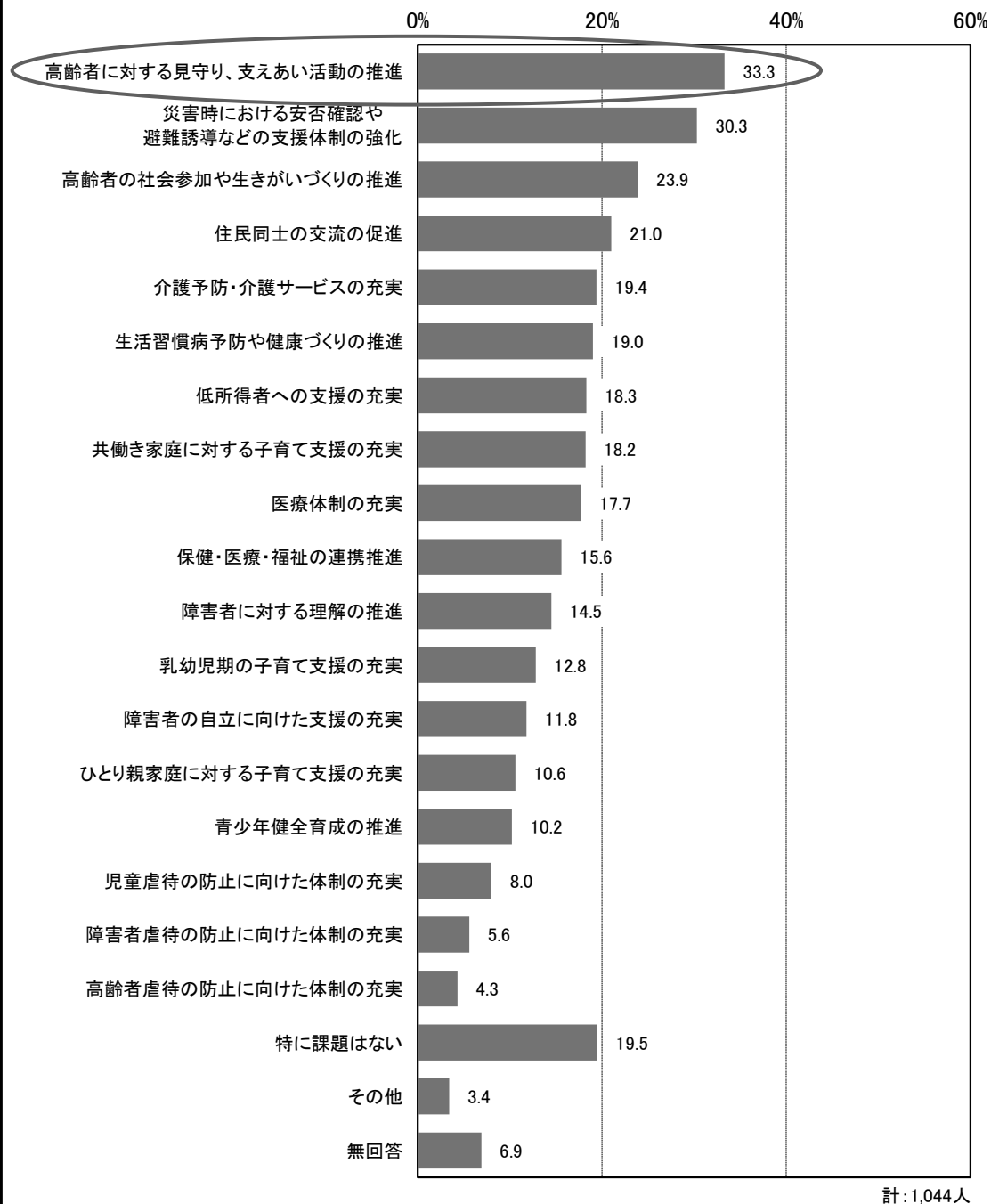
お住まいの地域の課題について尋ねたところ、「高齢者に対する見守り、支えあい活動の推進」が最も多く、それに次いで「災害時における安否確認や避難誘導などの支援体制の強化」が挙げられました（P 33 図²³）。

また、今後地域での助け合いを推進していくために、住民のひとりとしてできることは何かと尋ねたところ、「日頃から隣近所とのつながりをもうように心がける」が最も多い回答となっています（P 22 図¹⁷）。

これらのことから多くの市民の共通課題として見守り活動が挙げられ、またこの見守り活動が地域での助け合いを推進していくために必要なものだということがわかります。家族や近隣、地域社会におけるつながり・支え合い機能の脆弱が進む中、地域の中で生活の困りごとや生活のしづらさを抱えた人々が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、早期に問題を発見し、民生委員・児童委員と連携をとりながら、迅速に必要な支援につなげることが重要です。また、日頃から孤立することなく、身近な地域の人々との関わりを強くすることで、安心感を得て、いつまでも住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けていくことが可能となります。

市社協は、このような互助、共助と言われる互いにつながり・共に支え合いながら、その地域で暮らすことが実現できるよう見守りネットワーク活動の推進に努めます。

図²³ 【あなたがお住まいの地域には、どのような課題があると思いますか。
（複数回答）】



（市民アンケート調査から抜粋）

活動目標② 災害時における支援体制の充実

必要と思うボランティア活動について尋ねてみると、「高齢者との交流ができる活動」と回答した人が最も多くなっています。次いで、「ひとりで始められる活動」、「子どもとの交流ができる活動」と続いています。地区（校区）社協活動のような、地域コミュニティ活動や防災活動についても必要と答えている人もいました（P35 図²⁴）。

昨今、大規模な災害が全国で多発しています。地域において市民が安心して生活を送るため、日頃から災害に対する安心・安全なまちづくりが求められます。

そのためには、地域において自治会を主とした防災意識の向上のほか、災害弱者と言われる要援護者に対する支援体制の充実が必要です。また、災害が発生した際、被災者の復興には、行政や関係機関の力だけでなく多くのボランティアの力が必要となってきます。市社協は、災害が発生した時これまで培ってきたネットワークを生かし、被災者に寄り添った支援が円滑に行えるよう災害ボランティアセンターの設置体制の充実を図ります。そのために災害ボランティアセンターの運営等に携わることのできる人の育成に努めます。また、災害が発生した際の関係機関の連携をめざし、災害ボランティアのネットワークづくりに努めます。

災害ボランティアセンター設置運営訓練



ボランティア受付の様子

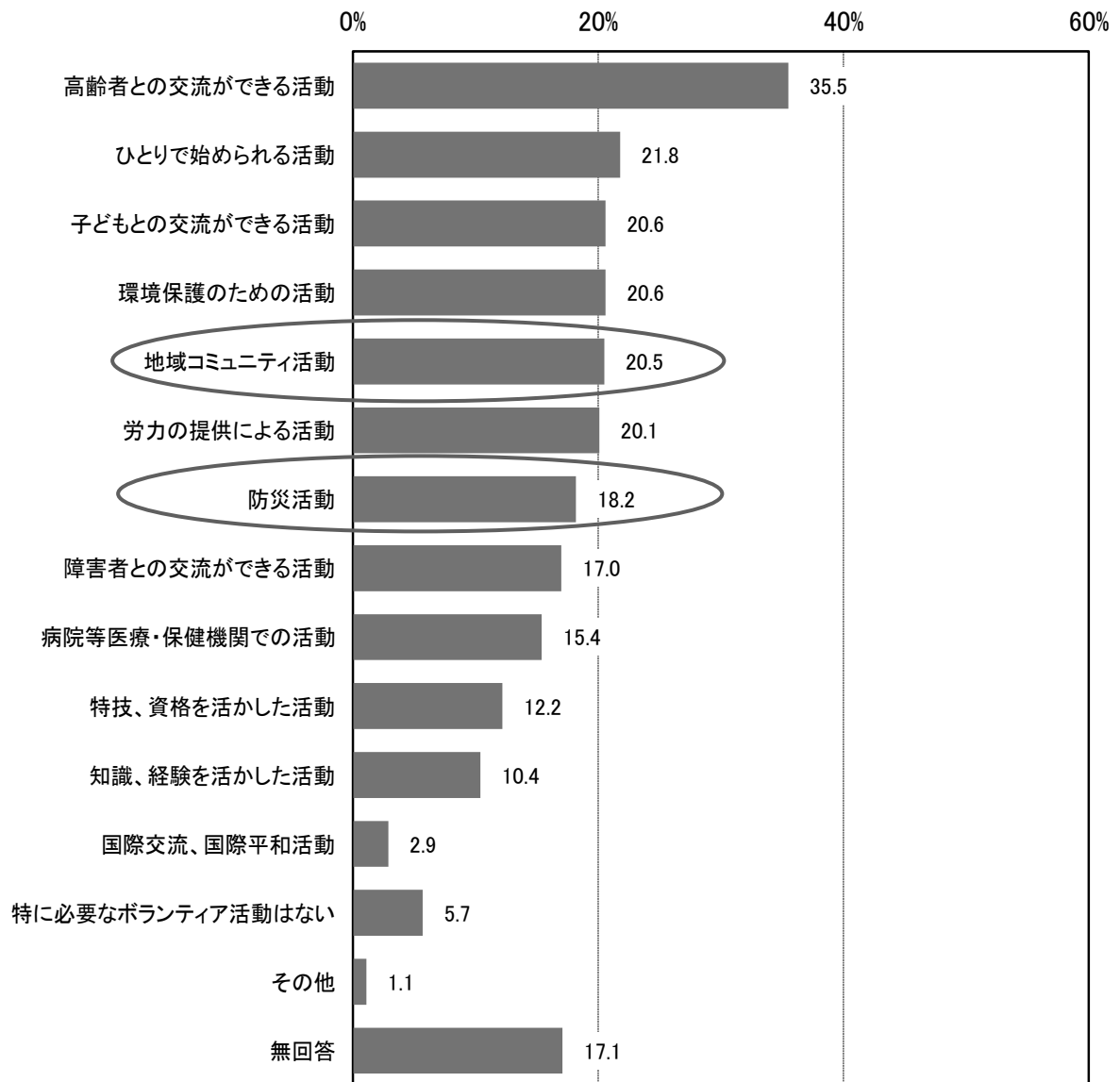


ボランティア活動内容の伝達



炊き出しの様子

図 24 【あなたは、今、どのようなボランティア活動が必要だと思いますか。
（複数回答）】



計: 1,044人

（市民アンケート調査から抜粋）

第3次 地域福祉活動推進年次計画

平成29年度～平成33年度

第3次 地域福祉活動推進年次計画

【基本目標 1】 地域福祉を担う人づくり

活動目標① 地域福祉活動担い手の育成

活動目標② ボランティアの育成及びボランティア活動等への支援

活動目標③ 福祉教育・福祉意識啓発活動の推進

※数値は平成29年3月1日現在(以下同じ)

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
1	地区社協リーダー研修	地区(校区)社協の活動の主体となるリーダーを養成する。		実施	見直	実施		
2	ボランティアセンター登録の推進 ※注1	諫早市ボランティアセンター登録団体の加入促進を図り、ボランティア活動の活性化に努める。 (H28:85団体、個人59人)	団体数 個人(人)	90 60			100 90	
3	ボランティア活動助成事業の推進	ボランティア活動が円滑に行われるよう活動費の助成を行う。		実施	見直	実施		
4	ボランティアの啓発活動	広報媒体を活用して情報の提供を行い、ボランティア活動啓発を実施する。		実施	見直	実施		
5	ボランティア相談窓口の充実	相談窓口の充実を図り、活動啓発やボランティアのコーディネートを実施する。		実施	見直	実施		
6	ボランティア連絡協議会の支援	ボランティア連絡協議会の加入促進を図るとともに、活動が円滑に行われるよう支援する。 (H28:43団体)	団体数	45			60	
7	ボランティア育成講座の実施	ボランティアの基礎知識及びリーダー養成研修を開催し、活動啓発を図る。		実施	見直	実施		
8	福祉協力校指定事業の実施	諫早市内小・中学校及び高等学校における福祉教育の充実と福祉活動への参加意識向上を図る。		実施	見直	実施		

第3次 地域福祉活動推進年次計画

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
9	福祉体験学習の支援 ※注2	福祉体験サポーターのスキルアップを図り、学校・企業などからの要請に応じ、福祉活動への意識向上を図る。		実施		見直		実施
10	諫早市社会福祉大会の開催	講演会や福祉活動の紹介を通じて福祉意識啓発を行い、住民の福祉活動の促進を図る。		実施		見直		実施
11	広報活動の充実 (広報紙・ホームページ・チラシ)	様々な媒体を活用し、福祉活動への啓発を図るとともに、財源を告知し活動への参画につながるよう実施する。		実施		見直		実施
12	実習生受入事業の実施	専門職の更新育成に努める。		実施		見直		実施
13	福祉読本の制作	わかりやすい福祉に関する手引書を作成し、住民の福祉に対する理解・関心を高め、福祉活動への参加促進を図る。		検討	実施			

注1 諫早市ボランティアセンター

ボランティア活動に関する相談に応じ、ボランティア登録や、ボランティアが必要な人、ボランティア活動を希望する人のコーディネートを行ないます。また、研修や講座を開催し、ボランティアの養成をしています。

注2 福祉体験学習

地域や学校等の要請に応じて、福祉についての話と車いすやアイマスクを使った疑似体験を行い、高齢者や障害者に対する理解を深めるものです。

学習の中では、見える障害のみならず、知的障害や精神障害など見えにくい障害により「生活のしづらさ」があるということも伝え、地域の中で様々な人が互いに助け合い支え合いながら共に暮らしていくノーマライゼーションの理念を伝えます。

第3次 地域福祉活動推進年次計画

【基本目標 2】共に支え合う地域づくり

活動目標① 地区(校区)社協活動の推進

活動目標② 顔見知りになるきっかけづくり

活動目標③ 住民同士の支え合いの促進

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
14	地区(校区)社協の運営支援	地区(校区)社協活動の活性化支援にあたる。		実施	見直	実施		
15	地区社協G20の充実	情報交換や研修を通じ、地域間の連携を強化し、今後の福祉活動の促進・充実を図る。		実施	見直	実施		
16	「地区(校区)社協活動の手引」の更新	住民の地区(校区)社協活動への参加促進を図るため、事業内容を紹介したパンフレットを適宜更新する。		実施	見直	実施		
17	ふれあいいきいきサロン活動の支援 ※注3	高齢者の介護予防や生きがいづくりの充実を図るため、ふれあいいきいきサロンの開催、開設の支援を行う。 (H28:148箇所)	開催箇所数	155	実施	見直	実施	180
18	子育てサロン活動の支援 ※注4	未就学児の親の育児サポートを地域で取り組めるよう、子育てサロンの開催、開設の支援を行う。 (H28:18箇所)	開催箇所数	19	実施	見直	実施	25
19	ひとり暮らし高齢者の集いの支援	地域のひとり暮らし高齢者の交流を図り孤立感の緩和につながる地区(校区)社協活動の支援を行う。		実施	見直	実施		
20	ふれあい食事サービスの支援	配食(会食)を通じた見守り活動に取り組む地区(校区)社協活動を支援する。 (H28:15地区)	開催地区数	16	実施	見直	実施	18
21	小地域福祉活動計画の策定支援	地域の実情に合わせた福祉活動の展開を図るため、地区(校区)社協の計画策定の支援にあたる。		検討	実施	見直	実施	

第3次 地域福祉活動推進年次計画

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
22	「小地域福祉台帳」の更新	地区(校区)社協の特性を把握し、地区(校区)社協活動の活性化を図る。		実施	見直	実施		
23	福祉協力員の設置・育成支援 ※注5	福祉協力員の育成を図ると共に、活動技術向上の研修会の開催を行う。 (H28:13地区)	設置地区数	17	→	18		
24	世代間交流事業の支援 ※注6	世代間交流事業を推進し、顔の見える地域づくりを支援する。 (H28:10地区)	開催地区数	14	→	18		
25	地区懇談会の開催支援	目的に沿った情報提供を行い、講演活動、福祉ニーズの把握に努める。		実施	見直	実施		
26	地域支え合い事業	住民が主体となって解決をめざす取り組み活動等を支援し、住民相互のネットワークの形成と地域の支え合いシステムの構築を図る。		実施	見直	実施		

注3 ふれあいいいききサロン

普段、外出の機会の少ない高齢者を対象に寄り合いの場所(公民館など)を提供し、生きがいがづくりや介護予防につなぐことを目的としています。自治会を中心に地域のボランティアや民生委員・児童委員、福祉協力員等の自由な発想で企画し自主的に運営しています。

注4 子育てサロン

未就学児の育児を行っている世帯を対象に、子育て中の親の孤独感や不安などの悩みを解消してくれる憩いの場であり、地域ぐるみで子育て支援を行う活動です。

注5 福祉協力員

地域の民生委員・児童委員、主任児童委員活動の補完的な役割を担い、地域の生活課題の掘り起こしや地域活動に参画し、地域住民の「見守り」、「助け合い」活動を行います。地区(校区)社会福祉協議会会長が委嘱します。

注6 世代間交流事業

子どもから高齢者まで、ふれあう機会が少ない者同士が文化、運動などをとおして世代を超えてふれあうことで、地域のネットワークを広げる活動です。

第3次 地域福祉活動推進年次計画

【基本目標 3】健康でいきいきと暮らせる地域づくり

活動目標① 高齢者の健康の増進及び生きがいの提供

活動目標② 障害者の理解促進及び自立支援

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
27	高齢者美術手工芸作品展の開催	高齢者の社会参加促進と生きがいを目的に実施する。		実施		見直		実施
28	地域福祉センター上山荘の運営	高齢者の健康増進及び生きがいを目的に実施する。		実施		見直		実施
29	障害者作品展(心の花展)の開催	障害者の社会参加及び障害者理解促進を目的に実施する。		実施		見直		実施
30	高次脳機能障害者サロン活動の実施 ※注7	ふれあいの場とピア相談の充実を図る。		実施		見直		実施

注7 高次脳機能障害者サロン

高次脳機能障害者とその家族を対象に集いの場を提供し、社会参加と自立に向けての支援及び高次脳機能障害について地域の理解を深めることを目的としています。

※高次脳機能障害とは、交通事故で強く頭を打ったり、脳卒中、低酸素脳症など脳の損傷によって記憶力や注意力、感情のコントロールなどに問題が生じる障害です。

第3次 地域福祉活動推進年次計画

【基本目標 4】 地域福祉を支える仕組みづくり

活動目標① 地域で相談・発見・解決できる仕組みづくり

活動目標② 自立生活を支える福祉サービス機能の充実

活動目標③ 市社協の基盤強化

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
31	ふれあい福祉相談事業の実施	内容の充実と相談員技術向上を図る。		実施	見直	実施		
32	専門相談事業の実施	弁護士、司法書士などによる専門相談日を開設する。		実施	見直	実施		
33	生活福祉資金貸付事業の実施	委託者である県社協と協議しながら、継続して実施する。		実施				
34	諫早市社会福祉協議会福祉資金貸付事業の実施	生活が困窮した世帯の生活再建に必要な資金の融通を図る。		実施	見直	実施		
35	日常生活自立支援事業の実施 ※注8	職員の資質向上を図り、利用者の発掘及び支援を行う。 (H28:31人)	実利用者数 (人)	実施				
				35	50			
36	車いす貸与事業の実施	骨折など一時的に車いすが必要になった際に貸与する。		実施	見直	実施		
37	くらしに役立つ活用講座の開催	多種・多様なサービスを活用し、自立した日常生活の営みを図る。		実施	見直	実施		
38	社協役員研修の実施	県社協研修等へ参加する。		実施	見直	実施		

第3次 地域福祉活動推進年次計画

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
39	職員のスキルアップ	資格取得の促進及び計画的な職員の研修参加を行う。		実施	見直	実施		
40	職員用災害救援マニュアルの作成	安否確認及び被害状況の報告体制、役割分担を整備する。		実施	見直	実施		
41	社協会員加入促進	会費の使途を検討し、広報等を活用して会員の増員を図る。 (H28賛助会員:536) (H28特別会員:175)	賛助会員 (口数) 特別会員 (口数)	540 180	実施			580 220
42	基金の運用管理	基金の効果的な運用を図る。		実施	見直	実施		
43	長崎県共同募金会諫早市支会の運営	市社協が事務局を所管し、募金協力者の新規開拓に努め、地域福祉活動推進を図る。 (H28赤い羽根募金:92.8%) (H28歳末たすけあい募金:94.7%)	募金目標達成率 (%) 赤い羽根 歳末	95 96	実施			99 98
44	日本赤十字社長崎県支部諫早市地区の運営	市社協が事務局を所管し、社協業務との整合性を図りながら推進していく。 (H28:94.2%)	会員目標達成率 (%)	95	実施			99
45	施設管理経営事業の受託	市と協議の上、適切に管理する。		見直	実施			

注8 日常生活自立支援事業

認知症高齢者、知的障害者、精神障害者などで判断能力が不十分な方が、地域の中で安心して自立した生活が送れるよう支援をする事業です。

第3次 地域福祉活動推進年次計画

【基本目標 5】安全・安心に暮らせる地域づくり

活動目標① 地域における見守り活動の支援

活動目標② 災害時における支援体制の充実

No.	事業名	取組活動	年次計画					
			数値目標項目	H29	H30	H31	H32	H33
46	見守りネットワーク活動の推進 ※注9	ひとり暮らし高齢者など要援護者の見守り体制を推進する。		実施		見直	実施	
47	諫早市民生委員児童委員協議会連合会との連携 ※注10	民生委員・児童委員の活動環境整備をおこない、連携を図る。		実施				
48	災害ボランティアセンターの設置体制の整備 ※注11	災害救援マニュアルを活用し、災害時の円滑な立ち上げ体制の整備を図る。		実施		見直	実施	
49	災害ボランティアネットワークづくり	災害に備え、ボランティア活動者によるネットワークの整備を実施する。		検討		実施		

注9 見守りネットワーク

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、重度の障害者など、見守りや日常生活に手助けが必要な人を対象に、地域住民が連携して見守りをしていく活動です。

注10 民生委員・児童委員

厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員、地域住民である皆さんと同じ立場で相談にのり、必要であれば福祉制度や生活支援のサービスを受けられるように関係機関へつなぐ役割を果たしています。

注11 災害ボランティアセンター

大規模な災害が発生した際、被災地でのボランティア活動を円滑に進めるために設置される活動拠点のことで、主に地元の社会福祉協議会に設置されます。

小地域福祉台帳

各地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況及び活動状況

- | | |
|----------|----------|
| ①諫小地区 | ⑪小長井地区 |
| ②上山地区 | ⑫森山地区 |
| ③上諫早地区 | ⑬小野地区 |
| ④北小校区 | ⑭有喜地区 |
| ⑤西諫早小学校区 | ⑮小栗地区 |
| ⑥西諫早地区 | ⑯飯盛地区 |
| ⑦御館山校区 | ⑰真津山小学校区 |
| ⑧本野地区 | ⑱多良見東地区 |
| ⑨長田地区 | ⑲喜々津地区 |
| ⑩高来地区 | ⑳多良見西地区 |



地区（校区）社会福祉協議会活動エリア図

各地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況（人口や世帯数など）

地区（校区） 社会福祉協議会	H27人口	H27世帯数	H27 一世帯 当人員	H22 一世帯 当人員	H27－H22 一世帯 当人員	H27 高齢 化率 (%)	H22 高齢 化率 (%)	H27－H22 高齢化率	要援護者 登録者数
1 諫 小 地 区	7,625	3,254	2.34	2.38	△ 0.04	21.2	16.3	4.9	238
2 上 山 地 区	6,865	2,965	2.32	2.34	△ 0.02	24.2	22.5	1.7	243
3 上 諫 早 地 区	1,979	590	3.35	3.59	△ 0.24	36.9	31.3	5.6	26
4 北 小 校 区	12,704	5,202	2.44	2.47	△ 0.03	26.0	23.5	2.5	302
5 西 諫 早 小 学 校 区	9,154	3,780	2.42	2.50	△ 0.08	29.5	25.3	4.2	280
6 西 諫 早 地 区	9,839	3,858	2.55	2.65	△ 0.10	25.0	19.9	5.1	259
7 御 館 山 校 区	8,513	3,555	2.39	2.34	0.05	23.7	21.4	2.3	180
8 本 野 地 区	2,205	727	3.03	3.23	△ 0.20	34.7	29.2	5.5	39
9 長 田 地 区	5,141	1,759	2.92	3.21	△ 0.29	33.7	28.6	5.1	132
10 高 来 地 区	9,863	3,406	2.90	3.14	△ 0.24	30.9	27.2	3.7	228
11 小 長 井 地 区	5,462	1,835	2.98	3.26	△ 0.28	31.0	27.2	3.8	104
12 森 山 地 区	5,419	1,790	3.03	3.24	△ 0.21	32.7	28.4	4.3	54
13 小 野 地 区	5,532	1,960	2.82	2.99	△ 0.17	29.2	25.6	3.6	90
14 有 喜 地 区	4,499	1,394	3.23	3.22	0.01	41.3	37.1	4.2	96
15 小 栗 地 区	10,447	3,684	2.84	2.92	△ 0.08	21.1	16.5	4.6	210
16 飯 盛 地 区	7,116	2,486	2.86	3.05	△ 0.19	29.8	26.2	3.6	94
17 真 津 山 小 校 区	9,508	3,646	2.61	2.57	0.04	15.6	13.3	2.3	138
18 多 良 見 東 地 区	6,828	2,619	2.61	2.70	△ 0.09	32.2	24.5	7.7	130
19 喜 々 津 地 区	6,730	2,528	2.66	2.75	△ 0.09	22.9	18.2	4.7	281
20 多 良 見 西 地 区	2,649	859	3.08	3.27	△ 0.19	35.4	29.6	5.8	19
合 計	138,078	51,897	2.66	2.76	△ 0.10	27.1	23.4	3.7	3,143

※諫早市提供資料

※国勢調査結果（平成27年10月1日現在）をもとに諫早市において算出（要援護者登録者数を除く）

※要援護者登録者数は平成29年2月1日現在

「要援護者登録者」とは、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、重度の障害者のある方など、日常生活や災害時の避難に支援が必要となる方が、緊急時などにおいて地域の中で必要な支援が受けられるよう、諫早市が実施している要援護者登録制度における要援護者名簿に登録されている方のことです。

「地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況（４８ページから６７ページ掲載）」に係る時点及び出典（諫早市提供資料）

区分	時点	出典
人口・世帯数等	平成２７年１０月１日現在	国勢調査結果をもとに諫早市において算出
高齢	平成２９年１月３１日現在	諫早市保有データ
子ども ・就学前児童 ・保育園児 ・学童クラブ利用者 ・小学生	平成２８年４月１日現在 平成２９年１月３１日現在 平成２８年１２月１日現在 平成２８年５月１日現在	諫早市住民基本台帳人口をもとに算出 諫早市保有データ 諫早市保有データ 平成２８年度学校基本調査
障害	平成２８年１２月３１日現在	諫早市保有データ
その他 ・要援護者名簿登録者	平成２９年２月１日現在	諫早市保有データ
人的資源 ・自治会 ・民生委員・児童委員 ・福祉協力員 ・老人クラブ会員	平成２９年１月３１日現在 平成２９年１月３１日現在 平成２９年１月３１日現在 平成２８年４月１日現在	諫早市保有データ 諫早市保有データ 諫早市社会福祉協議会保有データ 諫早市保有データ
保育園・学校	平成２９年１月３１日現在	諫早市保有データ
福祉保健施設・病院 ・福祉保健施設 ・病院	平成２９年１月３１日現在 平成２８年１２月３１日現在	諫早市保有データ 病院一覧（長崎県医療政策課作成）

諫早市における地区（校区）社会福祉協議会の主な活動事業

※平成２９年２月１日現在（予定含）

活動事業	実施 地区数	活動事業	実施 地区数
ふれあいいきいきサロン	２０ （１４８箇所）	福祉協力員設置事業	１３ （１４３人）
子育てサロン	１２ （１８箇所）	ボランティア登録	４
地区懇談会	５ （１６回）	小地域福祉活動計画指定 または策定済	５
世代間交流	１０	研修会	１６
ひとり暮らし高齢者の集い	１９	広報紙発行	１９
ふれあい食事サービス	１５		



諫小地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

※諫早市提供資料（以下同じ）

高 齢

要支援認定者：103 人
要介護認定者：185 人
配食サービス利用者：2 人
認知症高齢者用GPS利用者：0 人
緊急通報システム利用者：8 人
訪問介護利用者：74 人
通所介護利用者：121 人

子ども

就学前児童：457 人
保育園児：251 人
学童クラブ利用者：106 人
小学生：500 人

障 害

身体障害者手帳所持者：273 人
療育手帳所持者：80 人
精神障害者保健福祉手帳所持者：78 人

その他

要介護者名簿登録者：238 人

人的資源

自治会：13 自治会
民生委員・児童委員：21 人
福祉協力員：0 人
老人クラブ会員：357 人

人口・世帯数等

※（ ）は市全体に対する割合。
以下同じ。

人口：7,625 人（5.5%）
世帯数：3,254 世帯（6.3%）
男性：3,546 人（5.5%）
女性：4,079 人（5.6%）
15歳未満人口：1,178 人（6.2%）
15～64歳人口：4,834 人（5.9%）
65歳以上人口：1,613 人（4.3%）
65歳以上人口割合：21.2%
一世帯当たり人員：2.34 人
65歳以上の単身世帯：348 世帯

保育園・学校

・サンタの家保育園
・菜の花こども園
・諫早小学校
・諫早高等学校附属中学校

福祉保健施設・病院

・長崎障害者就業・生活支援センタ
ー

① 諫小地区社会福祉協議会

設立年月 昭和51年2月



「餅つき大会」

役員構成		部会構成	活動事業
会長	1人	—	ふれあいいきいきサロン 2箇所
副会長	2人		旭町第二、仲沖町
理事	21人		
監事	2人		
事務局長・会計	1人		
			子育てサロン 1箇所
			諫小地区内全町
地区（校区）社協会費			地区懇談会 —
1世帯／年		100円	世代間交流 —

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会、小学校長、青少年健全育成会、諫早市議会議員、ふれあいいきいきサロン代表者、子育てサロン代表者

自治会・町内会(13)

東小路町、高城町、八天町、本町、東本町、旭町第一、旭町第二、仲沖町、幸町、厚生町、上町、八坂町、栄町

ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
ふれあい食事サービス	年3回
福祉協力員設置事業	—
ボランティア登録	—
小地域福祉活動計画	—
研修会	—
広報紙発行	年1回
(その他)	
団体助成	

地区（校区）社協の目指すもの（重点目標や地区自慢など）

子育てサロン「たんぽぽクラブ」、仲沖町ふれあいいきいきサロン、旭町ふれあいいきいきサロンを実施しています。仲沖町ふれあいいきいきサロンは長くしており、平成8年から20年続いています。毎年12月の第一日曜日に、諫早小学校にてこどもを中心とした地域との交流を目的に『レッツエンジョイ』を実施しています。餅つきやバザー、昔遊びなど毎年賑やかに開催しています。



上山地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 6,865 人 (5.0%)
 世帯数 : 2,965 世帯 (5.7%)
 男性 : 3,187 人 (4.9%)
 女性 : 3,678 人 (5.0%)
 15 歳未満人口 : 1,049 人 (5.5%)
 15～64 歳人口 : 4,152 人 (5.1%)
 65 歳以上人口 : 1,664 人 (4.4%)
 65 歳以上割合 : 24.2%
 一世帯当たり人員 : 2.32 人
 65 歳以上の単身世帯 : 406 世帯

高 齢

要支援認定者 : 147 人
 要介護認定者 : 187 人
 配食サービス利用者 : 8 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 6 人
 訪問介護利用者 : 81 人
 通所介護利用者 : 132 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 309 人
 療育手帳所持者 : 60 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 60 人

その他

要介護者名簿登録者 : 243 人

保育園・学校

・諫早中央保育所 ・諫早幼稚園
 ・ともしび保育園 ・上山小学校
 ・すまいる保育園 ・諫早中学校
 ・キッズスクール認定こども園

福祉保健施設・病院

・諫早市社会福祉会館
 ・諫早市社会福祉協議会
 ・諫早市健康福祉センター
 ・諫早市上山荘南館・上山荘
 ・諫早市新道福祉交流センター
 ・諫早市障害者相談支援センター
 ・特別養護老人ホーム 諫早中央

子ども

就学前児童 : 468 人
 保育園児 : 275 人
 学童クラブ利用者 : 98 人
 小学生 : 417 人

人的資源

自治会 : 9 自治会
 民生委員・児童委員 : 19 人
 福祉協力員 : 11 人
 老人クラブ会員 : 338 人

② 上山地区社会福祉協議会

設立年月 昭和51年9月



子育てサロン

役員構成	部会構成	活動事業
会長 1人	—	ふれあいいきいきサロン 9箇所
副会長 3人		
理事 9人		宇都町、西小路町、原口町、上野町、船越町、立石町、西郷町、新道町、野中町
評議員 44人		
監事 2人		
事務局長 1人		子育てサロン 1箇所
		上山地区内全町
地区(校区)社協会費		地区懇談会 年5回
1世帯/年	—	世代間交流 —
地区社協役員構成団体		ひとり暮らし高齢者の集い 年1回
自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、さつき生活学校、青少年健全育成会、上山実守りの会		ふれあい食事サービス 年2回
		福祉協力員設置事業 11人
		ボランティア登録 —
		小地域福祉活動計画 —
		研修会 年1回
自治会・町内会(9)		広報紙発行 年1回
		(その他)
		団体助成
宇都町、西小路町、原口町、上野町、船越町、立石町、西郷町、新道町、野中町		
地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)		

住民主体の福祉活動の推進を目指して、各自治会、民生委員児童委員協議会、諫早市社会福祉協議会、その他各種団体と連携を密にしながら住民に参加を呼びかけ、地域ぐるみで福祉活動に取り組んでいます。
 ひとり暮らし高齢者に対するネットワーク活動や、青少年健全育成活動への協力などを行っており、特に上山実守りの会活動は、認知症高齢者を地域で見守っていくために平成21年から始めており、関係機関と協力しながら進めています。



上諫早地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 1,979 人 (1.4%)
 世帯数 : 590 世帯 (1.1%)
 男性 : 962 人 (1.5%)
 女性 : 1,017 人 (1.4%)
 15 歳未満人口 : 171 人 (0.9%)
 15～64 歳人口 : 1,077 人 (1.3%)
 65 歳以上人口 : 731 人 (2.0%)
 65 歳以上割合 : 36.9%
 一世帯当たり人員 : 3.35 人
 65 歳以上の単身世帯 : 54 世帯

高 齢

要支援認定者 : 40 人
 要介護認定者 : 84 人
 配食サービス利用者 : 2 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 1 人
 訪問介護利用者 : 18 人
 通所介護利用者 : 46 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 115 人
 療育手帳所持者 : 20 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 14 人

その他

要援護者名簿登録者 : 26 人

保育園・学校

・上諫早保育園
 ・上諫早小学校

子ども

就学前児童 : 63 人
 保育園児 : 35 人
 学童クラブ利用者 : 0 人
 小学生 : 75 人

人的資源

自治会 : 2 自治会
 民生委員・児童委員 : 3 人
 福祉協力員 : 6 人
 老人クラブ会員 : 125 人

福祉保健施設・病院

・あきやま病院

③ 上諫早地区社会福祉協議会

設立年月 昭和57年9月



世代間交流

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	—	ふれあいいきいきサロン	4箇所
理事	13人		本明町、目代町 ※目代町では、3箇所で開催	
監事	2人			
事務局長	1人			
地区(校区)社協会費			子育てサロン	—
1世帯/年			地区懇談会	年1回
			世代間交流	年1回
			ひとり暮らし高齢者の集い	—
			ふれあい食事サービス	年1回
			福祉協力員設置事業	6人
			ボランティア登録	—
			小地域福祉活動計画	—
			研修会	年1回
			広報紙発行	年1回
			(その他)	
			団体助成	

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会(女性部)、公民館館長、食生活改善推進協議会

自治会・町内会(2)

本明町、目代町

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

諫早市中央地区の北部山間部に位置した歴史のある地域です。本明町には、長崎県内で一番古い平松神社があり、目代町は、室町時代からこの地区の荘園(目代)が置かれた所です。最近、少子高齢化が急速に進み、市内でも高齢化率が高い地域になります。そのため、地域の「祭」ごとにも多くの人の参加をお願いして近所のふれあいを大事にし、ひとり暮らし高齢者に対して地域全体で連携を図りながら気がかけて見守りたいと思っています。



北小校区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 12,704 人 (9.2%)
 世帯数 : 5,202 世帯 (10.0%)
 男性 : 5,933 人 (9.1%)
 女性 : 6,771 人 (9.3%)
 15 歳未満人口 : 1,808 人 (9.6%)
 15～64 歳人口 : 7,587 人 (9.3%)
 65 歳以上人口 : 3,308 人 (8.8%)
 65 歳以上割合 : 26.0%
 一世帯当たり人員 : 2.44 人
 65 歳以上の単身世帯 : 618 世帯

高 齢

要支援認定者 : 242 人
 要介護認定者 : 408 人
 配食サービス利用者 : 7 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 11 人
 訪問介護利用者 : 143 人
 通所介護利用者 : 238 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 552 人
 療育手帳所持者 : 115 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 113 人

その他

要介護者名簿登録者 : 302 人

保育園・学校

・ふくた保育園 ・北諫早中学校
 ・なかよし村保育園
 ・真生保育園
 ・深山保育園
 ・北諫早幼稚園
 ・諫早純心幼稚園
 ・北諫早小学校

子ども

就学前児童 : 690 人
 保育園児 : 421 人
 学童クラブ利用者 : 205 人
 小学生 : 725 人

人的資源

自治会 : 6 自治会
 民生委員・児童委員 : 22 人
 福祉協力員 : 0 人
 老人クラブ会員 : 407 人

福祉保健施設・病院

・特別養護老人ホーム 善隣荘
 ・特別養護老人ホーム しろみ
 ・ケアハウス 英智園
 ・生活支援ハウス 花の里
 ・諫早記念病院

④ 北小校区社会福祉協議会

設立年月 昭和51年8月



ひとり暮らし高齢者の集い

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	研修部	ふれあいいきいきサロン	1箇所
副会長	3人	食事サービス	日の出町	
理事	17人	お楽しみ会		
理事兼事務局長	1人	広報部会	子育てサロン	1箇所
評議員	18人	ネット部会		
監事	2人		北小校区内全町	
ネット委員	6人		地区懇談会	—
地区(校区)社協会費			世代間交流	—
1世帯／年	—		ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
1自治会／年	5,000円		ふれあい食事サービス	年5回

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会

自治会・町内会(6)

福田町、泉町、金谷町、日の出町、城見町、天満町

福祉協力員設置事業	—
ボランティア登録	—
小地域福祉活動計画	平成20年度指定
研修会	年1回
広報紙発行	年1回
(その他)	
団体助成、伝統芸能継承助成	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

地区内のひとり暮らし高齢者を対象としたふれあい食事サービスなどを通し、地域での見守りを行い、支え合いのネットワーク作りに努めています。
 また、ふれあいいきいきサロンや子育てサロンを開催したり、お楽しみ会として年に1回、ひとり暮らしの高齢者をお招きし、子ども達や地域住民との交流の場を設けたりして住民相互の交流を深めています。



西諫早小学校区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 9,154 人 (6.6%)
 世帯数 : 3,780 世帯 (7.3%)
 男性 : 4,302 人 (6.6%)
 女性 : 4,852 人 (6.6%)
 15 歳未満人口 : 1,211 人 (6.4%)
 15～64 歳人口 : 5,241 人 (6.4%)
 65 歳以上人口 : 2,699 人 (7.2%)
 65 歳以上割合 : 29.5%
 一世帯当たり人員 : 2.42 人
 65 歳以上の単身世帯 : 416 世帯

高 齢

要支援認定者 : 170 人
 要介護認定者 : 295 人
 配食サービス利用者 : 6 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 2 人
 緊急通報システム利用者 : 20 人
 訪問介護利用者 : 96 人
 通所介護利用者 : 158 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 355 人
 療育手帳所持者 : 73 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 57 人

その他

要援護者名簿登録者 : 280 人

保育園・学校

・太陽保育所
 ・つぼみ保育園
 ・星の子保育園
 ・ばらの幼稚園
 ・西諫早小学校
 ・西諫早中学校

子ども

就学前児童 : 437 人
 保育園児 : 206 人
 学童クラブ利用者 : 115 人
 小学生 : 511 人

人的資源

自治会 : 9 自治会
 民生委員・児童委員 : 17 人
 福祉協力員 : 15 人
 老人クラブ会員 : 369 人

福祉保健施設・病院

⑤ 西諫早小学校区社会福祉協議会

設立年月 平成8年6月



世代間交流

役員構成		部会構成	活動事業
会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン 8箇所
副会長	2人	事業部	小船越町(小船越一区)、小船越町(小船越二区)、馬渡町(馬渡町第一、馬渡町九番地)、馬渡町(馬渡町第二)、馬渡町(馬渡五番地)、山川町、中尾町 ※中尾町では2箇所で実施
理事	18人	広報部	
評議員	8人		
理事監事	2人		
理事事務局長	1人		
理事会計	1人		子育てサロン —
地区(校区)社協会費			地区懇談会 年4回
1世帯/年	50円		世代間交流 年3回

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、青少年健全育成会

自治会・町内会(9)

小船越町、馬渡町第一、馬渡町第二、馬渡町五番地、馬渡町九番地、山川町第一、山川町第二、山川町中地区、中尾町

ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
ふれあい食事サービス	—
福祉協力員設置事業	15人
ボランティア登録	—
小地域福祉活動計画	策定済
研修会	年1回
広報紙発行	年2回
(その他)	
ネットワーク支援者懇談会、通学合宿、放課後こども教室	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

地域内住民の福祉に関する連帯感を養い、福祉活動の推進を図り、住民が等しく健康で明るい生活ができる福祉社会の実現を目指しています。通学合宿では5日間を通して行い、公民館での宿泊や食事作り、近所へのもらい湯など、小学校や地域住民の協力を得て地域全体で取り組んでいます。



西諫早地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 9,839 人 (7.1%)
 世帯数 : 3,858 世帯 (7.4%)
 男性 : 4,426 人 (6.8%)
 女性 : 5,413 人 (7.4%)
 15歳未満人口 : 1,718 人 (9.1%)
 15～64歳人口 : 5,665 人 (6.9%)
 65歳以上人口 : 2,456 人 (6.6%)
 65歳以上割合 : 25.0%
 一世帯当たり人員 : 2.55 人
 65歳以上の単身世帯 : 456 世帯

高齢

要支援認定者 : 142 人
 要介護認定者 : 217 人
 配食サービス利用者 : 5 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 1 人
 緊急通報システム利用者 : 12 人
 訪問介護利用者 : 88 人
 通所介護利用者 : 106 人

障害

身体障害者手帳所持者 : 408 人
 療育手帳所持者 : 85 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 65 人

その他

要介護者名簿登録者 : 259 人

保育園・学校

・すこやか保育園
 ・諫早清水幼稚園
 ・真城小学校
 ・真崎小学校
 ・真城中学校
 ・諫早特別支援学校

子ども

就学前児童 : 527 人
 保育園児 : 275 人
 学童クラブ利用者 : 141 人
 小学生 : 677 人

人的資源

自治会 : 14 自治会
 民生委員・児童委員 : 19 人
 福祉協力員 : 10 人
 老人クラブ会員 : 395 人

福祉保健施設・病院

・城谷病院

⑥ 西諫早地区社会福祉協議会

設立年月 平成8年10月



ひとり暮らし高齢者の集い

役員構成	部会構成	活動事業
会長 1人		ふれあいいきいきサロン 7箇所
副会長 4人		白岩町東部、白岩町西部、真崎町、真崎団地、堂崎町第一、堂崎町第二、堂崎町第三
委員 10人		
監事 2人		
事務局長 1人		
		子育てサロン 2箇所
		西諫早地区内全町
		地区懇談会 —
		世代間交流 —
		ひとり暮らし高齢者の集い 年1回
		ふれあい食事サービス 年2回
		福祉協力員設置事業 10人
		ボランティア登録 —
		小地域福祉活動計画 平成20年度指定
		研修会 年1回
		広報紙発行 年1回
		(その他)
		学童保育運営、いきいきカフェ運営

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会、育友会、青少年健全育成会

自治会・町内会(14)

白岩町東部、白岩町西部、白岩町南部、白岩町北部、堂崎町第一、堂崎町第二、堂崎町第三、津水町、雇用津水、真崎町、真崎団地、真崎町西部台、西部台堀の内町、破籠井町

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

超高齢社会の到来を見据え、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きることができるまちづくりを目指しています。具体的には、ふれあいいきいきサロンの充実拡大、地域の寄り合い所の設置、「ワンコインサービス」などの日常生活の支援に取り組んでいます。



御館山校区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 8,513 人 (6.2%)
 世帯数 : 3,555 世帯 (6.9%)
 男性 : 4,002 人 (6.2%)
 女性 : 4,511 人 (6.2%)
 15 歳未満人口 : 1,215 人 (6.4%)
 15～64 歳人口 : 5,282 人 (6.5%)
 65 歳以上人口 : 2,015 人 (5.4%)
 65 歳以上割合 : 23.7%
 一世帯当たり人員 : 2.39 人
 65 歳以上の単身世帯 : 315 世帯

高 齢

要支援認定者 : 125 人
 要介護認定者 : 235 人
 配食サービス利用者 : 1 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 8 人
 訪問介護利用者 : 75 人
 通所介護利用者 : 100 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 323 人
 療育手帳所持者 : 60 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 86 人

その他

要介護者名簿登録者 : 180 人

保育園・学校

・みたち保育園 ・諫早東特別支援
 ・こころ保育園 学校
 ・鎮西学院幼稚園
 ・御館山小学校
 ・明峰中学校

福祉保健施設・病院

・県央保健所
 ・長崎県発達障害者支援センター
 しおさい
 ・特別養護老人ホーム 椿寿荘
 ・ケアハウス 椿寿荘、第二椿寿荘
 ・諫早総合病院
 ・諫早市こども準夜診療センター
 ・長崎県立こども医療福祉センター
 ・小島居諫早病院

子ども

就学前児童 : 521 人
 保育園児 : 272 人
 学童クラブ利用者 : 120 人
 小学生 : 550 人

人的資源

自治会 : 5 自治会
 民生委員・児童委員 : 13 人
 福祉協力員 : 15 人
 老人クラブ会員 : 259 人

⑦ 御館山校区社会福祉協議会

設立年月 昭和53年8月

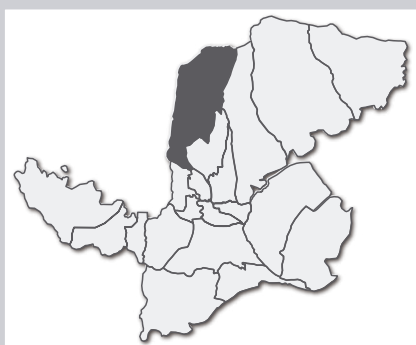
ひとり暮らし高齢者の集い



役員構成	部会構成	活動事業
会長 1人	—	ふれあいいきいきサロン 3箇所
副会長 4人		
理事 24人		栄田町、永昌町、西栄田町
顧問 1人		
監事 2人		子育てサロン 1箇所
事務局長 1人		御館山校区内全町
		地区懇談会 —
		世代間交流 —
地区(校区)社協会費		ひとり暮らし高齢者の集い 年1回
1世帯/年	—	ふれあい食事サービス 年2回
地区社協役員構成団体		福祉協力員設置事業 15人
自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会		ボランティア登録 —
		小地域福祉活動計画 平成22年度指定
		研修会 —
自治会・町内会(4)		広報紙発行 —
永昌町、永昌東町、栄田町、西栄田町		(その他)
		老人会活動の協力・助成、通学合宿

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

地域に市の玄関口「諫早駅」や幼稚園から小・中・高校・大学までの教育機関があり、さらに総合病院、高齢者福祉施設など交通・教育・医療・福祉と環境に恵まれた校区社協です。
 平成22年に全世帯を対象としたニーズ調査を実施し、設置の要望があった子育てサロンに取り組むなど住民のニーズに沿った活動を心がけています。



本野地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 2,205 人 (1.6%)
 世帯数 : 727 世帯 (1.4%)
 男性 : 1,048 人 (1.6%)
 女性 : 1,157 人 (1.6%)
 15 歳未満人口 : 169 人 (0.9%)
 15～64 歳人口 : 1,271 人 (1.6%)
 65 歳以上人口 : 765 人 (2.0%)
 65 歳以上割合 : 34.7%
 一世帯当たり人員 : 3.03 人
 65 歳以上の単身世帯 : 107 世帯

高 齢

要支援認定者 : 74 人
 要介護認定者 : 102 人
 配食サービス利用者 : 1 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 2 人
 訪問介護利用者 : 26 人
 通所介護利用者 : 80 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 128 人
 療育手帳所持者 : 42 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 24 人

その他

要介護者名簿登録者 : 39 人

保育園・学校

・ もとの保育園
 ・ 明教保育園
 ・ 本野小学校

子ども

就学前児童 : 60 人
 保育園児 : 48 人
 学童クラブ利用者 : 0 人
 小学生 : 66 人

人的資源

自治会 : 5 自治会
 民生委員・児童委員 : 6 人
 福祉協力員 : 0 人
 老人クラブ会員 : 281 人

福祉保健施設・病院

・ 障害者支援施設 きぼうの里
 ・ みどりの園病院

⑧ 本野地区社会福祉協議会

設立年月 昭和52年7月



敬老会

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	戦没者・水難者法要部会	ふれあいいきいきサロン	6箇所
副会長	1人		本野町、富川町(二股)、富川町(洞仙)、湯野尾町、上大渡野町、下大渡野町	
理事	4人	敬老会・ひとり暮らし部会	子育てサロン	—
委員	38人		地区懇談会	—
監事	2人	ひとり高齢者給食部会	世代間交流	—
事務局長	1人		ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
会計	1人	広報部会	ふれあい食事サービス	年4回
地区(校区)社協会費			福祉協力員設置事業	—
1世帯/年		100円	ボランティア登録	—
			小地域福祉活動計画	—
			研修会	—
			広報紙発行	年1回
			(その他)	

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会、保育園、農業協同組合、交通安全協会、諫早市議会議員、駐在所、生産森林組合、健全育成会、郵便局、PTA会長、学識経験者、小学校、消防団、社会教育指導員、出張所、地区振興会、保護司

自治会・町内会(5)

本野町、富川町、湯野尾町、上大渡野町、下大渡野町

敬老会、合同追悼法要、源流祭

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

地区内の全ての団体で組織しており、各団体と緊密に連携を図りながら、住民の福祉の増進のため各種活動を行っています。

また、毎年、「本野地区合同追悼法要」及び「源流祭」を行い、明治の西南戦争に従事した方々から第二次大戦までの戦没者を慰霊するとともに、諫早大水害で亡くなった犠牲者を追悼しています。



長田地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 5,141 人 (3.7%)
 世帯数 : 1,759 世帯 (3.4%)
 男性 : 2,357 人 (3.6%)
 女性 : 2,784 人 (3.8%)
 15歳未満人口 : 504 人 (2.7%)
 15～64歳人口 : 2,905 人 (3.6%)
 65歳以上人口 : 1,732 人 (4.6%)
 65歳以上割合 : 33.7%
 一世帯当たり人員 : 2.92 人
 65歳以上の単身世帯 : 171 世帯

高齢

要支援認定者 : 143 人
 要介護認定者 : 247 人
 配食サービス利用者 : 5 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 3 人
 訪問介護利用者 : 38 人
 通所介護利用者 : 115 人

障害

身体障害者手帳所持者 : 273 人
 療育手帳所持者 : 45 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 22 人

その他

要介護者名簿登録者 : 132 人

保育園・学校

・西崎保育園
 ・ながた保育園
 ・長田くみあい保育所
 ・長田小学校
 ・長田中学校

子ども

就学前児童 : 184 人
 保育園児 : 169 人
 学童クラブ利用者 : 55 人
 小学生 : 209 人

人的資源

自治会 : 12 自治会
 民生委員・児童委員 : 14 人
 福祉協力員 : 0 人
 老人クラブ会員 : 845 人

福祉保健施設・病院

・生活支援ハウス
 諫早ゆたか荘ルナホーム
 ・介護老人保健施設
 ケアホーム・クローバー

⑨ 長田地区社会福祉協議会

設立年月 昭和50年4月



ひとり暮らし高齢者の集い

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン	5箇所
副会長	1人	事業部	西里町、御手水町、白木峰町、正久寺町、高天町	
運営委員(部長)	3人	広報部		
委員	29人			
監事	2人		子育てサロン	—
			地区懇談会	—
地区(校区)社協会費			世代間交流	—
1世帯/年	200円		ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
地区社協役員構成団体			ふれあい食事サービス	年1回
自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会、学校育友会、出張所、農業協同組合、保護司			福祉協力員設置事業	—
			ボランティア登録	—
			小地域福祉活動計画	—
			研修会	年1回
			広報紙発行	年2回
自治会・町内会(12)			(その他)	
小豆崎町、西里町、中田町、御手水町、大場町、白木峰町、長田町、正久寺町、高天町、白浜町、白原町、猿崎町			敬老会、長田駅伝大会後援	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

地域内における一人暮らしの高齢者や障害者に対する「仲間作り・ふれあい活動」と、「見守り・たすけあい活動」の充実を目指しています。
 毎年3月には、桃の節句に併せて食事サービスの提供を行い、委員が対象者宅へ一軒一軒手渡しで弁当と饅頭を宅配し、見守り活動に繋がっています。また近年の新たな取り組みとして、長田公民館と連携し、各ふれあいいきいきサロンへそれぞれの要望に基づき、映画鑑賞や健康体操などの出前講座を開催しています。



高来地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 9,863 人 (7.1%)
 世帯数 : 3,406 世帯 (6.6%)
 男性 : 4,646 人 (7.1%)
 女性 : 5,217 人 (7.1%)
 15歳未満人口 : 1,157 人 (6.1%)
 15～64歳人口 : 5,655 人 (6.9%)
 65歳以上人口 : 3,051 人 (8.1%)
 65歳以上割合 : 30.9%
 一世帯当たり人員 : 2.90 人
 65歳以上の単身世帯 : 352 世帯

高齢

要支援認定者 : 208 人
 要介護認定者 : 454 人
 配食サービス利用者 : 3 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 12 人
 訪問介護利用者 : 85 人
 通所介護利用者 : 209 人

障害

身体障害者手帳所持者 : 580 人
 療育手帳所持者 : 129 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 80 人

その他

要援護者名簿登録者 : 228 人

保育園・学校

・春日園保育所 ・和同保育園
 ・金松園保育所 ・高来西小学校
 ・金華保育園 ・湯江小学校
 ・深海保育園 ・高来中学校

福祉保健施設・病院

・諫早市高来ふれあい会館
 ・諫早市高来しゃくなげ荘
 ・養護老人ホーム 聖フランシスコ園
 ・特別養護老人ホーム 悠恵荘
 ・ケアハウス 豊寿園
 ・障害者支援施設 しらぬい学園

子ども

就学前児童 : 439 人
 保育園児 : 381 人
 学童クラブ利用者 : 39 人
 小学生 : 493 人

人的資源

自治会 : 47 自治会
 民生委員・児童委員 : 22 人
 福祉協力員 : 0 人
 老人クラブ会員 : 665 人

⑩ 高来地区社会福祉協議会

設立年月 平成18年11月



ひとり暮らし高齢者の集い

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	財政部	ふれあいいきいきサロン	9箇所
副会長	1人	事業部	里、小峰、汲水、坂本、泉、下与、上与、西平原、大戸 ※大戸は、上大戸、下大戸一緒に実施	
理事	10人	広報部		
会計	1人			
監事	4人		子育てサロン	—
事務局長	1人		地区懇談会	—
地区(校区)社協会費			世代間交流	年1回
1世帯/年	500円		ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
地区社協役員構成団体			ふれあい食事サービス	年21回
			福祉協力員設置事業	—
			ボランティア登録	135人
			小地域福祉活動計画	—
			研修会	年1回
自治会・町内会(47)			広報紙発行	年2回
神津倉、上三部倉、東三部倉、西三部倉、里、町名、法川、黒崎、小峰、善住寺、東平原、湯江峰、水ノ浦、東溝口、西溝口、馬場、山道、上山道、汲水、坂元、黒新田、小中尾、泉、下金崎、上金崎、下与、倉床、上与、一里松、峰、平田、折山、西平原、西尾、中程、小船津、萩原、榎堂、建山、高松、川内、蟹食、船津、上大戸、下大戸、富地戸、佐古谷			(その他)	
			遠隔地送迎バス運行、男の料理教室、学童保育の支援活動、こどもの餅つき大会、こどものケーキづくり教室、施設指定管理	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

誰にでも優しい環境づくりと人づくりを目指して活動をしています。地区内のボランティア団体の連絡会である「やまびこ」を組織し、地区内のボランティア活動を推進しています。
 こどもの餅つき大会やケーキづくり教室の実施、児童館・学童保育への活動支援など次代を担うこどもに対する支援や、町民全体でのグランドゴルフ大会の開催など世代間の交流を図る活動にも取り組んでいます。



小長井地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 5,462 人 (4.0%)
 世帯数 : 1,835 世帯 (3.5%)
 男性 : 2,390 人 (3.7%)
 女性 : 3,072 人 (4.2%)
 15 歳未満人口 : 518 人 (2.7%)
 15～64 歳人口 : 3,249 人 (4.0%)
 65 歳以上人口 : 1,695 人 (4.5%)
 65 歳以上割合 : 31.0%
 一世帯当たり人員 : 2.98 人
 65 歳以上の単身世帯 : 214 世帯

高 齢

要支援認定者 : 140 人
 要介護認定者 : 290 人
 配食サービス利用者 : 1 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 3 人
 訪問介護利用者 : 64 人
 通所介護利用者 : 93 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 380 人
 療育手帳所持者 : 84 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 34 人

その他

要介護者名簿登録者 : 104 人

保育園・学校

・ふたば保育園 ・遠竹小学校
 ・清和保育園 ・小長井中学校
 ・遠竹保育園 ・諫早特別支援学校
 ・井崎保育園 みさかえ分教室
 ・長里小学校
 ・小長井小学校

福祉保健施設・病院

・諫早市小長井さざんか会館
 ・諫早市小長井健康センター
 ・特別養護老人ホーム 小長井希望園
 ・みさかえの園
 ・佐藤病院

子ども

就学前児童 : 160 人
 保育園児 : 151 人
 学童クラブ利用者 : 30 人
 小学生 : 217 人

人的資源

自治会 : 7 自治会
 民生委員・児童委員 : 12 人
 福祉協力員 : 10 人
 老人クラブ会員 : 638 人

⑪ 小長井地区社会福祉協議会

設立年月 平成19年2月

 ふれあいいきいきサロン	役員構成		部会構成	活動事業	
	会長	1人	—	ふれあいいきいきサロン	18箇所
	副会長	2人		遠竹(釜)、遠竹(遠竹、柳南、黒仁田)、井崎(築切)、井崎、小ヶ浦(小ヶ浦一)、小ヶ浦(小ヶ浦二)、小ヶ浦(小ヶ浦三)、小ヶ浦(小ヶ浦四)、小ヶ浦(小ヶ浦五)、小ヶ浦(新田原)、田原、田原(農場)、田原(清水)、牧、長里(尾ノ上)、長里(田代一)、長里(足角)、長里(打越)	
	理事	4人			
地区(校区)社協会費 1世帯／年 400円	評議員	22人		子育てサロン	—
	監事	2人		地区懇談会	—
	事務局長	1人		世代間交流	年6回
				ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
地区社協役員構成団体				ふれあい食事サービス	—
自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、身体障害者福祉協会、青少年健全育成会、消防団、芸術文化連盟、交通安全協会、漁業協同組合、各学校PTA、母子寡婦福祉会、福祉施設代表				福祉協力員設置事業	10人
				ボランティア登録	—
				小地域福祉活動計画	—
				研修会	年1回
自治会・町内会(7)				広報紙発行	年2回
遠竹、井崎、小ヶ浦、田原、牧、長里、広川良				(その他)	
				施設管理、スポーツ・文化激励金、伝統浮立継承	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

小長井地区は長崎県の玄関口として、ロマンチックにたたずむフルーツバス停、イチゴ、メロン、ミカン、スイカ、トマトの5種類が可愛らしく出迎えてくれます。また、豊かな自然を生かした山茶花高原ピクニックパークには、これまで多くの観光客が訪れ、自然環境が豊かで景観が美しい町として名を上げています。
 そんな中、地区全域にふれあいいきいきサロンを立ち上げ、地域で暮らす高齢者の生きがい作りなどを進めています。



森山地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 5,419 人 (3.9%)
 世帯数 : 1,790 世帯 (3.4%)
 男性 : 2,482 人 (3.8%)
 女性 : 2,937 人 (4.0%)
 15歳未満人口 : 657 人 (3.5%)
 15～64歳人口 : 2,992 人 (3.7%)
 65歳以上人口 : 1,770 人 (4.7%)
 65歳以上割合 : 32.7%
 一世帯当たり人員 : 3.03 人
 65歳以上の単身世帯 : 186 世帯

高齢

要支援認定者 : 141 人
 要介護認定者 : 233 人
 配食サービス利用者 : 2 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 4 人
 訪問介護利用者 : 44 人
 通所介護利用者 : 141 人

障害

身体障害者手帳所持者 : 292 人
 療育手帳所持者 : 59 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 31 人

その他

要援護者名簿登録者 : 54 人

保育園・学校

・もりやま保育園
 ・森山東小学校
 ・森山西小学校
 ・森山中学校

子ども

就学前児童 : 218 人
 保育園児 : 193 人
 学童クラブ利用者 : 79 人
 小学生 : 276 人

人的資源

自治会 : 7 自治会
 民生委員・児童委員 : 12 人
 福祉協力員 : 12 人
 老人クラブ会員 : 400 人

福祉保健施設・病院

・諫早市森山老人福祉センター
 ・諫早市健康福祉センター森山分館
 ・特別養護老人ホーム
 唐比温泉秀峰荘
 ・唐比病院

⑫ 森山地区社会福祉協議会

設立年月 平成18年9月



防減災まちあるき事業推進委員会

役員構成		部会構成	活動事業
会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン 13箇所
副会長	2人	事業部	慶師野、本村(下)、本村(白塔)、田尻(釜)、田尻(釜・倉津)、田尻(干拓)、唐比(東)、唐比(巡川)、下井牟田(井手口)、下井牟田(駅前)、下井牟田(原)、下井牟田(峰)、森山地区全体(中央)
理事	11人	広報部	子育てサロン 1箇所
評議員	17人		森山地区内全町
監事	2人		地区懇談会
事務局長兼会計	1人		世代間交流
顧問	1人		ひとり暮らし高齢者の集い
地区(校区)社協会費			ふれあい食事サービス
1世帯/年	900円		福祉協力員設置事業
			ボランティア登録
			小地域福祉活動計画
			研修会
			広報紙発行
			(その他)

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、母子会、学識経験者、更生保護女性会、身体障害者福祉協会、ボランティア、食生活改善推進協議会、子ども会育成連合会、学校長代表 青少年健全育成会

自治会・町内会(7)

慶師野、本村、田尻、杉谷、唐比、上井牟田、下井牟田

敬老会開催助成、防減災まちあるき事業推進委員会、福祉協力校助成ボランティア助成金、金婚式表彰、施設管理

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

住み慣れた地域で過ごせるよう、県、市社協の指定を受けて防災・減災の視点から見直す「防減災まちあるき事業」に取り組んできました。実際にまちを歩いて危険箇所を点検したり避難経路の確認を行ったり、住民によるフォーラムを開催するなどしてまいりました。

今後は、事業主体を住民に移すため、実施グループ(まちあるき事業推進員)の育成を行うと共に、住民間および外部との協力体制の構築に取り組んでまいります。



小野地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 5,532 人 (4.0%)
 世帯数 : 1,960 世帯 (3.8%)
 男性 : 2,622 人 (4.0%)
 女性 : 2,910 人 (4.0%)
 15 歳未満人口 : 698 人 (3.7%)
 15～64 歳人口 : 3,217 人 (3.9%)
 65 歳以上人口 : 1,617 人 (4.3%)
 65 歳以上割合 : 29.2%
 一世帯当たり人員 : 2.82 人
 65 歳以上の単身世帯 : 196 世帯

高 齢

要支援認定者 : 143 人
 要介護認定者 : 182 人
 配食サービス利用者 : 6 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 3 人
 訪問介護利用者 : 31 人
 通所介護利用者 : 108 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 245 人
 療育手帳所持者 : 63 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 24 人

その他

要援護者名簿登録者 : 90 人

保育園・学校

・もはら保育園
 ・小野保育園
 ・ほなみ保育園
 ・小野小学校
 ・小野中学校

子ども

就学前児童 : 279 人
 保育園児 : 208 人
 学童クラブ利用者 : 46 人
 小学生 : 268 人

人的資源

自治会 : 9 自治会
 民生委員・児童委員 : 13 人
 福祉協力員 : 13 人
 老人クラブ会員 : 505 人

福祉保健施設・病院

・姉川病院
 ・菅整形外科病院

⑬ 小野地区社会福祉協議会

設立年月 昭和42年4月



ふれあいいいききサロン

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	—	ふれあいいいききサロン	5箇所
副会長	3人		長野町、黒崎町、赤崎町、小野島町、川内町	
委員	7人			
構成員	35人			
監事	2人			
事務局	3人		子育てサロン	—
書記	1人		地区懇談会	—
			世代間交流	—
地区(校区)社協会費			ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
1世帯/年	250円		ふれあい食事サービス	年2回
			福祉協力員設置事業	13人
			ボランティア登録	—
			小地域福祉活動計画	—
			研修会	年1回
			広報紙発行	年3回
			(その他)	
			敬老会、紅白饅頭配布、団体助成	

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、福祉協力員、老人会、婦人会、出張所、更生保護女性会

自治会・町内会(9)

長野町、宗方町、小野町、小野団地、黒崎町、赤崎町、小野島町、川内町、曙町

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

見守り、支え合い、助け合い等により地域のつながりを深くし、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域福祉の実現を目指しています。

諫早市で最も早く地区(校区)社会福祉協議会が設立された地域であり、福祉協力員や各種団体と協力して地域の福祉課題の解決に取り組んでいます。



有喜地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 4,499 人 (3.3%)
 世帯数 : 1,394 世帯 (2.7%)
 男性 : 1,989 人 (3.1%)
 女性 : 2,510 人 (3.4%)
 15 歳未満人口 : 422 人 (2.2%)
 15～64 歳人口 : 2,219 人 (2.7%)
 65 歳以上人口 : 1,858 人 (5.0%)
 65 歳以上割合 : 41.3%
 一世帯当たり人員 : 3.23 人
 65 歳以上の単身世帯 : 184 世帯

高 齢

要支援認定者 : 124 人
 要介護認定者 : 270 人
 配食サービス利用者 : 5 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 1 人
 緊急通報システム利用者 : 2 人
 訪問介護利用者 : 43 人
 通所介護利用者 : 78 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 327 人
 療育手帳所持者 : 59 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 28 人

その他

要介護者名簿登録者 : 96 人

保育園・学校

・有喜保育園
 ・のぞみ保育園
 ・有喜小学校
 ・有喜中学校

子ども

就学前児童 : 145 人
 保育園児 : 115 人
 学童クラブ利用者 : 29 人
 小学生 : 168 人

人的資源

自治会 : 9 自治会
 民生委員・児童委員 : 9 人
 福祉協力員 : 9 人
 老人クラブ会員 : 282 人

福祉保健施設・病院

・養護老人ホーム 福寿園
 ・養護老人ホーム 光明荘
 ・特別養護老人ホーム 天恵荘
 ・介護老人保健施設 恵仁荘
 ・介護療養型老人保健施設 恵愛荘
 ・諫早療育センター
 ・恵寿病院

⑭ 有喜地区社会福祉協議会

設立年月 昭和55年4月



敬老会

役員構成		部会構成	活動事業
会長	1人	敬老部	ふれあいいきいきサロン 7箇所
副会長	1人	一人暮らし高齢者	松里町、有喜町第一、有喜町第二、有喜町第三、早見町、鶴田町、中通町
事務局長	1人	ボランティア	
会計	1人	広報	
監事	2人		子育てサロン 1箇所
顧問	1人		有喜地区内全町
理事	31人		地区懇談会 —
地区(校区)社協会費			世代間交流 年8回
1世帯/年	100円		ひとり暮らし高齢者の集い 年1回
			ふれあい食事サービス 年1回
			福祉協力員設置事業 9人
			ボランティア登録 13人
			小地域福祉活動計画 —
			研修会 年1回
			広報紙発行 年2回
			(その他)
			敬老会、ボランティアスクール

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会、子ども会、青少年健全育成会、育友会、漁業協同組合、小・中学校長、PTA、交通安全協会、出張所

自治会・町内会(9)

松里町第一、松里町第二、有喜町第一、有喜町第二、有喜町第三、早見町、鶴田町、中通町、天神町

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

日頃からお互いを思いやり、支え合う「共に生きるまちづくり」を目指して関係機関と連携して様々な活動を実施しています。将来を担う人財の育成を目的に、小中学生を対象として実施しているボランティアスクールは今年度で16回目になりました。

有喜ふれあい会館の図書ボランティア活動や、住民同士のちょっとした助け合い活動の実施を検討するなど住民が住んでいて良かったと思えるような地域づくりを進めています。



小栗地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 10,447 人 (7.6%)
 世帯数 : 3,684 世帯 (7.1%)
 男性 : 5,392 人 (8.3%)
 女性 : 5,055 人 (6.9%)
 15 歳未満人口 : 1,717 人 (9.1%)
 15～64 歳人口 : 6,521 人 (8.0%)
 65 歳以上人口 : 2,209 人 (5.9%)
 65 歳以上割合 : 21.1%
 一世帯当たり人員 : 2.84 人
 65 歳以上の単身世帯 : 352 世帯

高齢

要支援認定者 : 125 人
 要介護認定者 : 225 人
 配食サービス利用者 : 10 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 6 人
 訪問介護利用者 : 88 人
 通所介護利用者 : 117 人

障害

身体障害者手帳所持者 : 358 人
 療育手帳所持者 : 56 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 73 人

その他

要介護者名簿登録者 : 210 人

保育園・学校

・いちご保育園
 ・小栗保育園
 ・くるみ保育園
 ・認定こども園小栗幼稚園
 ・小栗小学校
 ・みはる台小学校

子ども

就学前児童 : 645 人
 保育園児 : 377 人
 学童クラブ利用者 : 143 人
 小学生 : 725 人

人的資源

自治会 : 17 自治会
 民生委員・児童委員 : 19 人
 福祉協力員 : 0 人
 老人クラブ会員 : 507 人

福祉保健施設・病院

・横尾病院

⑮ 小栗地区社会福祉協議会

設立年月 昭和55年5月



ふれあいいきいきサロン

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	—	ふれあいいきいきサロン	12箇所
副会長	1人			
会計	1人			
監事	2人			
顧問	2人			
委員	23人			
			子育てサロン	—
			地区懇談会	—
地区(校区)社協会費			世代間交流	—
	1世帯/年	—	ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
			ふれあい食事サービス	年1回

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、遺族会、交通安全協会、消防団、育友会、小学校、出張所

自治会・町内会(17)

平山町、平山団地、土師野尾町、栗面町、雇用栗面、栗面住宅、県住栗面団地、小ヶ倉町、川床町、鷺崎町、小川町、扇町、夫婦木、小栗住宅、小川団地、ひばりが丘、刑務所官舎

(その他)
 小栗地区戦没者慰霊際、団体助成

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

住民の地域福祉に関する連帯感を養い、福祉活動の推進を図り、住民がひとしく健康で、明るい生活ができる福祉社会の実現を目的としています。市社協と連携を密にして、また地区内関係諸団体の協力を得て次の事業を行っています。①老人福祉に関する活動②青少年・児童の福祉及び事故防止に関する活動③父子母子福祉・心身障がい者等に関する活動



飯盛地域

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 7,116 人 (5.2%)
 世帯数 : 2,486 世帯 (4.8%)
 男性 : 3,354 人 (5.2%)
 女性 : 3,762 人 (5.1%)
 15 歳未満人口 : 886 人 (4.7%)
 15～64 歳人口 : 4,101 人 (5.0%)
 65 歳以上人口 : 2,124 人 (5.7%)
 65 歳以上割合 : 29.8%
 一世帯当たり人員 : 2.86 人
 65 歳以上の単身世帯 : 273 世帯

高 齢

要支援認定者 : 113 人
 要介護認定者 : 318 人
 配食サービス利用者 : 11 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 3 人
 訪問介護利用者 : 40 人
 通所介護利用者 : 129 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 397 人
 療育手帳所持者 : 65 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 46 人

その他

要介護者名簿登録者 : 94 人

保育園・学校

・珠光保育園
 ・常香保育園
 ・認定こども園ふじ幼稚園
 ・飯盛東小学校
 ・飯盛西小学校
 ・飯盛中学校

子ども

就学前児童 : 311 人
 保育園児 : 222 人
 学童クラブ利用者 : 34 人
 小学生 : 376 人

人的資源

自治会 : 17 自治会
 民生委員・児童委員 : 17 人
 福祉協力員 : 0 人
 老人クラブ会員 : 713 人

福祉保健施設・病院

・特別養護老人ホーム 特養いいもり

① 飯盛地区社会福祉協議会

設立年月 平成19年3月

	役員構成		部会構成	活動事業	
	会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン	17箇所
	副会長	1人	事業部	後田、後田(米山)、船津、下釜、久保、佐田、小島、平古場、石原、山口(東)、山口(西)、開、田平・清水、寺平、川下、古場 ※後田は、米山を含め計3箇所で実施	
	理事	22人	広報部		
視察研修受入	会計	1人			
	監事	2人			
	事務局長	1人		子育てサロン	2箇所
地区(校区)社協会費				飯盛地区内全町	
1世帯/年			200円	地区懇談会	—
地区社協役員構成団体				世代間交流	—
自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、ボランティア代表、青少年健全育成会、PTA、学童保育、学校、子育てサロン				ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
				ふれあい食事サービス	年11回
				福祉協力員設置事業	—
				ボランティア登録	—
自治会・町内会(17)				小地域福祉活動計画	—
後田、船津、下釜、久保、佐田、小島、平古場、石原、山口、開、上原、池下、清水、寺平、田平、川下、古場				研修会	年1回
				広報紙発行	年2回
				(その他)	
				学童保育運営	
地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)					
「だれもがいいきとふれあえる地域作り」をモットーに、住民相互の支え合い活動などを行っています。 町内のボランティア団体の参画も得ながら実施している「ふれあい食事サービス」は、年11回実施しており、ひとり暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦世帯、障害者のみの世帯等、見守りが必要な世帯に対し、手作りのお弁当を届け、ふれあいと見守り活動を行っています。					



真津山小校区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 9,508 人 (6.9%)
 世帯数 : 3,646 世帯 (7.0%)
 男性 : 4,793 人 (7.4%)
 女性 : 4,715 人 (6.5%)
 15歳未満人口 : 1,674 人 (8.8%)
 15～64歳人口 : 6,354 人 (7.8%)
 65歳以上人口 : 1,480 人 (3.9%)
 65歳以上割合 : 15.6%
 一世帯当たり人員 : 2.61 人
 65歳以上の単身世帯 : 177 世帯

高齢

要支援認定者 : 75 人
 要介護認定者 : 158 人
 配食サービス利用者 : 2 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 4 人
 訪問介護利用者 : 29 人
 通所介護利用者 : 75 人

障害

身体障害者手帳所持者 : 262 人
 療育手帳所持者 : 48 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 40 人

その他

要援護者名簿登録者 : 138 人

保育園・学校

・くやまえん
 ・桜が丘保育園
 ・あおぞら保育園
 ・虹色保育園
 ・認定こども園西諫早幼稚園
 ・真津山小学校
 ・長崎日本大学中学校

子ども

就学前児童 : 767 人
 保育園児 : 439 人
 学童クラブ利用者 : 188 人
 小学生 : 604 人

人的資源

自治会 : 7 自治会
 民生委員・児童委員 : 13 人
 福祉協力員 : 12 人
 老人クラブ会員 : 333 人

福祉保健施設・病院

・介護老人保健施設 ろうけん西諫早
 ・宮崎病院
 ・西諫早病院

⑪ 真津山小校区社会福祉協議会

設立年月 平成9年6月



世代間交流

役員構成		部会構成	活動事業
会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン 4箇所
副会長	3人	事業部	貝津町、久山町、久山台ニュータウン、若葉町
理事	9人	広報部	
評議員	38人		
監事	2人		子育てサロン 4箇所 貝津町、久山町、久山台ニュータウン、青葉台
会計	1人		
事務局長	1人		地区懇談会 年5回
顧問	3人		世代間交流 年10回
地区(校区)社協会費			ひとり暮らし高齢者の集い 年1回
1世帯/年	—		ふれあい食事サービス 年2回

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、婦人会、女性防火クラブ、更生保護女性会、PTA、中核工業団地自治振興会事務局長、少年補導員、小学校校長、各サロン代表、顧問:医療関係者

自治会・町内会(7)

貝津町、貝津ヶ丘、津久葉町、久山町、久山台ニュータウン、若葉町、青葉台

(その他)

おもしろ科学実験(年2回)
 花だより(年1回)

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

「一人暮らし高齢者」事業の充実を重点目標に活動しています。また、地域の世代間交流を活発にし地域ぐるみの子育て支援を行うため、次に掲げる事業に取り組んでいます。①おもしろ科学実験(年に2回子供達と一緒に科学実験に挑戦)、②花だより(植木鉢に花を植え、子供達と一緒に高齢者に手渡し)、③昔あそび(小学校一年生に、子供達の祖父母と一緒に遊べる「むかしあそび」の学習指導・支援)



多良見東地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 6,828 人 (4.9%)
 世帯数 : 2,619 世帯 (5.0%)
 男性 : 3,166 人 (4.9%)
 女性 : 3,662 人 (5.0%)
 15 歳未満人口 : 802 人 (4.2%)
 15～64 歳人口 : 3,817 人 (4.7%)
 65 歳以上人口 : 2,202 人 (5.9%)
 65 歳以上割合 : 32.2%
 一世帯当たり人員 : 2.61 人
 65 歳以上の単身世帯 : 239 世帯

高 齢

要支援認定者 : 108 人
 要介護認定者 : 189 人
 配食サービス利用者 : 0 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 7 人
 訪問介護利用者 : 43 人
 通所介護利用者 : 74 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 303 人
 療育手帳所持者 : 50 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 30 人

その他

要介護者名簿登録者 : 130 人

保育園・学校

・多良見保育園
 ・シーサイド保育園
 ・喜々津東小学校

福祉保健施設・病院

・諫早市たらみ福祉活動センター
 ・介護老人保健施設 恵風園
 ・日赤長崎原爆諫早病院
 ・慈恵病院

子ども

就学前児童 : 310 人
 保育園児 : 156 人
 学童クラブ利用者 : 65 人
 小学生 : 211 人

人的資源

自治会 : 12 自治会
 民生委員・児童委員 : 10 人
 福祉協力員 : 10 人
 老人クラブ会員 : 330 人

⑱ 多良見東地区社会福祉協議会

設立年月 平成18年8月



世代間交流

役員構成		部会構成	活動事業
会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン 7箇所
副会長	3人	事業部	シーサイド一区、シーサイド四区、大島、 停車場、阿蘇、丸尾二区、井樋ノ尾
運営委員	5人	広報部	
評議員	25人		
監事	2人		子育てサロン 2箇所 多良見東地区全町
事務局長	1人		
			地区懇談会 年1回
地区(校区)社協会費			世代間交流 年11回
1世帯/年	200円		ひとり暮らし高齢者の集い 年1回

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、母子会、青少年健全育成会、身体障害者福祉協会、学校代表、食生活改善推進協議会、ボランティア連絡会、学識経験者

自治会・町内会(12)

シーサイド一区、シーサイド二区、シーサイド三区、シーサイド四区、大島、化屋、停車場、福井田、阿蘇、丸尾一区、丸尾二区、井樋ノ尾

ふれあい食事サービス	—
福祉協力員設置事業	10人
ボランティア登録	—
小地域福祉活動計画	—
研修会	年2回
広報紙発行	年2回
(その他)	
子育てサロン三地区合同運動会、ふれあい年賀状	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

当地区のエリアは、JR喜々津駅周辺街区と昭和50年代に造成された住宅団地(シーサイド団地、丸尾団地)からなります。住宅団地では少子高齢化が急速に進んでおり、その対策と取り組みが喫緊の課題となっています。地区社協は、住民同士の交流や関わり合いの機会を増やし、ボランティアを中心とした「支え合い」「助け合い」への気風を地域に醸成し、生活支援ボランティア活動等の実践を通し、「安全に」「安心して」「楽しく生きる」地域づくりに尽力しています。



喜々津地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口 : 6,730 人 (4.9%)
 世帯数 : 2,528 世帯 (4.9%)
 男性 : 3,232 人 (5.0%)
 女性 : 3,498 人 (4.8%)
 15 歳未満人口 : 1,081 人 (5.7%)
 15～64 歳人口 : 4,098 人 (5.0%)
 65 歳以上人口 : 1,544 人 (4.1%)
 65 歳以上割合 : 22.9%
 一世帯当たり人員 : 2.66 人
 65 歳以上の単身世帯 : 186 世帯

高 齢

要支援認定者 : 85 人
 要介護認定者 : 181 人
 配食サービス利用者 : 2 人
 認知症高齢者用GPS利用者 : 0 人
 緊急通報システム利用者 : 5 人
 訪問介護利用者 : 35 人
 通所介護利用者 : 48 人

障 害

身体障害者手帳所持者 : 230 人
 療育手帳所持者 : 47 人
 精神障害者保健福祉手帳所持者 : 32 人

その他

要介護者名簿登録者 : 281 人

保育園・学校

・中里保育園
 ・わくわく保育園
 ・遊びの家共同保育園
 ・山美幼稚園
 ・喜々津小学校
 ・喜々津中学校

子ども

就学前児童 : 456 人
 保育園児 : 233 人
 学童クラブ利用者 : 149 人
 小学生 : 531 人

人的資源

自治会 : 10 自治会
 民生委員・児童委員 : 12 人
 福祉協力員 : 10 人
 老人クラブ会員 : 357 人

福祉保健施設・病院

・諫早市多良見食生活改善センター
 食工房まんだりん

⑨ 喜々津地区社会福祉協議会

設立年月 平成18年12月

	役員構成		部会構成		活動事業	
	会長	1人	総務部		ふれあいいきいきサロン	8箇所
	副会長	3人	事業部		喜々津船津、木床一区、木床二区、中里、喜々津団地、市布(下市、上市、山中)、多良見団地、西川内	
	運営委員	7人	広報部			
	評議員	28人				
	監事	2人			子育てサロン	1箇所
	事務局長	1人			喜々津地区内全町	
					地区懇談会	—
					世代間交流	年5回
					ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
					ふれあい食事サービス	—
					福祉協力員設置事業	10人
					ボランティア登録	—
					小地域福祉活動計画	策定済
					研修会	年2回
					広報紙発行	年2回
					(その他)	
					いきいきサロン実践者交流会、子育てサロン三地区合同運動会	

ひとり暮らし高齢者の集い

地区(校区)社協会費

1世帯/年 100円

地区社協役員構成団体

自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、学識経験者、ボランティア、ふれあいいきいきサロン、食生活改善推進協議会

自治会・町内会(10)

喜々津船津、木床一区、木床二区、中里、喜々津団地、下市、上市、山中、多良見団地、西川内

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

同じ地区に住む者同士が助け合い、支え合って、よりきめの細かい助け合い活動を展開し、明るい地域社会を築くことを目的としています。重点目標として、次の4点を掲げています。①自主活動に要する財源確保(会費の増額)、②活動拠点の確保、③地域住民及び市社協との連絡網の充実(電話、事務職員の確保など)、④市社協より活動運営に関する助成金の配分方法の検討



多良見西地区

地区（校区）社会福祉協議会の活動地域の概況

人口・世帯数等

人口	: 2,649 人 (1.9%)
世帯数	: 859 世帯 (1.7%)
男性	: 1,200 人 (1.8%)
女性	: 1,449 人 (2.0%)
15歳未満人口	: 286 人 (1.5%)
15～64歳人口	: 1,424 人 (1.7%)
65歳以上人口	: 939 人 (2.5%)
65歳以上割合	: 35.4%
一世帯当たり人員	: 3.08 人
65歳以上の単身世帯	: 95 世帯

高 齢

要支援認定者：76 人
要介護認定者：174 人
配食サービス利用者：0 人
認知症高齢者用GPS利用者：0 人
緊急通報システム利用者：1 人
訪問介護利用者：37 人
通所介護利用者：69 人

障 害

身体障害者手帳所持者：198 人
療育手帳所持者：15 人
精神障害者保健福祉手帳所持者：15 人

その他

要援護者名簿登録者：19 人

保育園・学校

- ・みどり保育園
- ・ルンビニーこども園
- ・大草小学校
- ・伊木力小学校
- ・琴海中学校

子ども

就学前児童：94 人
保育園児：74 人
学童クラブ利用者：23 人
小学生：127 人

人的資源

自治会：10 自治会
民生委員・児童委員：7 人
福祉協力員：10 人
老人クラブ会員：61 人

福祉保健施設・病院

- ・特別養護老人ホーム 真和荘

② 多良見西地区社会福祉協議会

設立年月 平成19年2月



ひとり暮らし高齢者の集い

役員構成		部会構成	活動事業	
会長	1人	総務部	ふれあいいきいきサロン	3箇所
副会長	2人	事業部	東西園、野副、元釜	
運営委員	5人	広報部		
評議員	13人			
監事	2人		子育てサロン	1箇所
事務局長	1人		多良見西地区内全町	
			地区懇談会	—
地区(校区)社協会費			世代間交流	年1回
1世帯／年	200円		ひとり暮らし高齢者の集い	年1回
地区社協役員構成団体			ふれあい食事サービス	—
自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、老人会、青少年健全育成会、食生活改善推進員、子育てサロン代表者			福祉協力員設置事業	10人
			ボランティア登録	—
			小地域福祉活動計画	—
			研修会	年1回
自治会・町内会(10)			広報紙発行	年2回
東西園、野副、元釜、野川内、山川内、伊木力中通、田中、伊木力舟津、佐瀬、琴ノ尾			(その他)	
			多良見子育てサロン合同運動会	

地区(校区)社協の目指すもの(重点目標や地区自慢など)

地域が抱える様々な福祉問題に対し、同じ地区に住む者同士が助け合い、支え合ってよりきめの細かい助け合い活動が展開されるよう地区社会福祉協議会を組織化し、住民の社会福祉への参加を促進させることを目的としています。

今後の目標としては、ふれあいの場としてのふれあいいきいきサロンが3箇所のみであることから、今後、他地区においてサロンが設置されるよう推進していきたいと思っています。

資 料

“地域福祉”に関するアンケート調査の概要

【調査の概要】

1. 調査の目的

第3次諫早市地域福祉活動計画の策定にあたり一般市民及び地域福祉活動を実践されている地区（校区）社会福祉協議会の担い手の方々を対象に、“地域福祉”に関する意識、現状認識、要望等を調査するもの。

2. 調査の対象及び調査方法

（1）市民アンケート調査

- 調査対象 無作為抽出した市内在住の20歳以上の男女3,000人
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 平成28年1月18日～2月5日

（2）地区（校区）社会福祉協議会関係者アンケート調査

- 調査対象 市内の20の地区（校区）社会福祉協議会の関係者500人
※各団体25人程度
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 調査期間 平成28年1月18日～2月5日

3. 回収結果

	市民アンケート調査	地区（校区）社会福祉協議会関係者アンケート調査
配付数	3,000	500
回収数 （有効回収率）	1,044 （34.8%）	384 （76.8%）

4. 調査結果

調査結果については、その一部は本策定計画の中に入れていきます。
詳しい調査結果は、本会ホームページ上でご覧になることができます。

本会ホームページ  <http://isahaya-shakyo.jp/>

地区（校区）社会福祉協議会へのヒアリング調査の概要

【調査の目的】

1. 調査の目的

第 3 次諫早市地域福祉活動計画の策定にあたり住民の自主的な組織で地域福祉の実践者である地区（校区）社会福祉協議会を対象に、地区の現状や運営及び活動に関する問題点・課題等について意見をお伺いするもの。

2. 調査の対象及び調査方法

- 調査対象 諫早市内にある地区（校区）社会福祉協議会（20地区）
- 調査方法 事前に調査票に記載いただいたうえ、特定の会場において、隣接又は近隣の 2～3 の地区（校区）社会福祉協議会ごとにヒアリング（聞き取り）調査を実施
- 調査期間 平成 28 年 2 月下旬～3 月初旬

3. 主な意見

（1）地区の現状について

- 一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯及び認知症の人が増えてきている。また、買い物などの日常生活に支障をきたしている高齢者も多くなってきている。
- 少子化や子どもの生活スタイルの変化（部活、習い事等）により子ども会活動に参加する子どもが少なくなり、活動が縮小している。
- 自治会に加入しなかったり、あいさつをしない住民がいる。また、住民が一堂に会する機会（班の寄合い等）や話し合いの場が減ってきているほか、参加者も一部の人に限られるなど、住民同士のつながりが希薄化している。
- 高齢者世帯が亡くなったあと、その子どもが帰ってこないため、空き家が増えている。

（2）住民からの声

- 「子育てサロン」、「ふれあいいきいきサロン」、「ひとり暮らし高齢者の集い」、「ふれあい食事サービス」といった各種活動について、利用者は開催を楽しみにしており、実施回数を増やしてほしいとの要望もあっている。
- 高齢者の中には、サロン等の会場まで自力で行くことが困難な人もおり、会場までの移動手段の確保が課題となっている。
- 高齢者からは、話し相手がほしいという声が一番多い。

（3）運営及び活動に関する問題点・課題

- 地区（校区）社会福祉協議会の活動を知らない住民が多く、理解されていない。
- 新たなボランティアが何年も入ってこない。役員の成り手がいないなど、

担い手不足が深刻な問題となっている。そのため、活動メンバーの負担が大きくなっている。

- 地区（校区）社会福祉協議会の役員や活動するメンバーは、自治会の役員や民生委員・児童委員などの他の役職も兼務していることから、負担が大きい。

（４）今後やってみたい活動

- 地域の人が自由に集える「寄合い所」の設置
- 高齢者を対象とした生活支援（簡単な作業の手伝い等）の実施
- 福祉協力員の設置、増員

第3次諫早市地域福祉活動計画策定委員会設置要領

(目的・設置)

第1条 第3次諫早市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）は、諫早市地域福祉計画と調整を図りながら、民間活動としての福祉の理解、住民参加による福祉のまちづくり、福祉推進のための基盤整備等を基本目標として地域福祉活動の推進方策を具現化すると共に、本会の基盤強化を図る計画を策定するために設置する。

(職務)

第2条 委員は、第3次地域福祉活動計画（以下「計画」という。）の策定に関する事項について審議する。

(組織)

第3条 委員会は委員15名以内をもって組織し、次の各号に掲げる者の中から諫早市社会福祉協議会（以下「本会」という。）会長が委嘱する。

- (1) 地域福祉やまちづくりの事業・活動及び計画に関する実践者並びに研究者
- (2) 保健福祉サービスに関する実践者
- (3) 児童・青少年の健全育成や地域学習に関する実践者
- (4) その他地域の保健・福祉・学習に関する事業・活動を推進する機関や団体の代表者

2 委員会に委員長及び副委員長各1名を置く。

3 委員長及び副委員長は、委員の互選により選任する。

4 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から計画の策定が終了するまでとする。

2 委員が任期の途中で交代した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数によって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見等を聴取することができる。

(ワーキンググループ)

第6条 委員会の円滑な運営を図るため、ワーキンググループを置く。

2 ワーキンググループは、本会の職員を中心に7名程度のメンバーで組織する。

(庶務)

第7条 委員会に関する庶務は、本会地域支援課において処理する。

(委任)

第8条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要事項は、委員長が別に定めるものとする。

附 則

この要領は、平成28年6月23日から施行する。

第3次諫早市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

任期：平成28年7月28日～平成29年3月31日

(五十音順)

	選出 区分	氏名	主な役職等	備考
	第4号	石橋 直子	諫早市健康福祉部 部長	
	第4号	大久保 てるひ	諫早市連合婦人会 会長	
	第2号	蠣崎 幸恵	中央部地域包括支援センター 主任	
○	第1号	神崎 敏則	諫早市地区社協会長会 代表	
	第1号	久保 啓子	諫早市ボランティア連絡協議会 会長	
	第4号	古賀 文朗	諫早市自治会連合会 会長	
	第3号	下村 高男	諫早市青少年健全育成会連絡協議会 会長	
	第4号	陣野 妙子	諫早市老人クラブ連合会 事務局長	
	第4号	副島 修作	諫早市民生委員児童委員協議会連合会 主任児童委員部会 部会長	
◎	第1号	中野 伸彦	長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部 副学長	
	第4号	橋本 文子	諫早市精神障害者家族会協会 (あけぼの会代表)	
	第4号	水田 明光	諫早市保育会 会長	
	第4号	村尾 憲治	諫早市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長	
	第4号	草野 俊子	諫早市民生委員児童委員協議会連合会 会長	平成28年12月22日～
	第2号	山崎 圭子	社会福祉法人 聖家族会 スマイルサポート 所長	
	第4号	森 恒紀	諫早市民生委員児童委員協議会連合会 会長	～平成28年12月19日

※◎は委員長、○は副委員長

【第3次諫早市地域福祉活動計画策定委員会設置要領第3条第1項各号の規定による区分】

第1号地域福祉やまちづくりの事業・活動及び計画に関する実践者並びに研究者

第2号保健福祉サービスに関する実践者

第3号児童・青少年の健全育成や地域学習に関する実践者

第4号その他地域の保健・福祉・学習に関する事業・活動を推進する機関や団体の代表者

第3次諫早市地域福祉活動計画ワーキンググループ名簿

No.	役職	氏名
1	参事監兼 地域支援課長	小川 睦
2	地域支援課主任	横田 ゆかり
3	地域支援課職員	田苗 恵造
4	地域支援課職員	原 章
5	地域支援課職員	林田 眞由美
6	総務課職員	團野 淳也
7	諫早市 健康福祉部職員 (地域福祉計画担当)	堀 慎太郎

第3次諫早市地域福祉活動計画 かんしゃプラン

発行：社会福祉法人 諫早市社会福祉協議会

〒854-0045 長崎県諫早市新道町948番地
諫早市社会福祉会館内

電 話：0957-24-5100

FAX：0957-24-5101

Web アドレス：<http://isahaya-shakyo.jp/>

発行日：平成29年3月

かんしゃプラン

